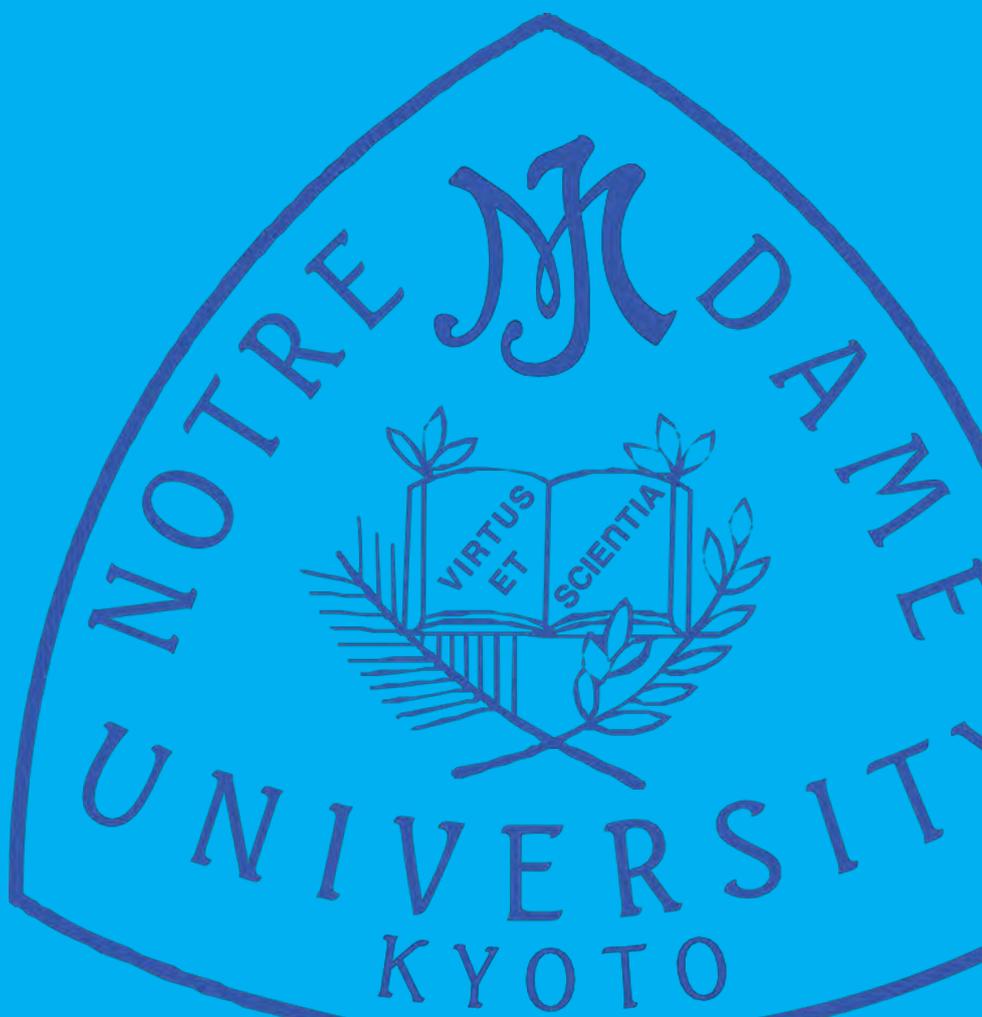


2020年度

FD報告書



京都ノートルダム女子大学



はじめに

この冊子では、2020（令和2）年度のFD活動を振り返り、報告させていただきます。本学は、2017（平成29）年4月に福祉生活デザイン学科・心理学科・こども教育学科の3学科からなる「現代人間学部」を開設しましたので、2020年度はこの新しい学部の完成年度でした。

そして今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行によって、これまで通りの大学の授業や行事の運営ができなくなり、あらゆる変更に対応せざるを得なかった年度でもありました。このような中でも、本学ではFD活動が続けられるように工夫を重ね、主に以下の事業を企画し、実施しました。

1. 学部生による授業評価アンケートは、2018年度以降の実施方法を踏襲し、教育支援システム（manaba）を利用してオンラインで、前期と後期に全科目を対象に実施しました。一方、大学院生による教育評価アンケートは、例年同様に後期に実施しました。

2. FD研修会については、ND教育センターとの共催でFD研修会「ティーチングポートフォリオを作ってみよう」というテーマでのオンライン研修会を実施しました。さらに大学院FD「人を対象とする研究における研究倫理を考える」を対面で開催しました。

3. 2020年度もオープンクラスを前期と後期に実施しました。どちらも事前に公開する授業を選定し、対面授業、オンライン授業のいずれについても映像や動画教材等を、一定の期間内にオンラインで視聴する方法で実施しました。

4. 外部の講演会や研修会等についても情報提供を折々に行い、教職員へのFDへの啓発活動を行いました。今年度はそのほとんどがオンラインによる提供になったことで、逆に利用しやすい教員も多かったようでした。

以上のような活動を本報告書としてまとめました。掲載されている様々なデータから、本学の教育活動の現状を読み取ることができます。ご一読を賜り、本学の教育・研究の更なる発展と向上に役立てていただけるよう、お願いを申し上げます。

2021（令和3）年3月

京都ノートルダム女子大学
FD委員会委員長 吉田智子

2020年度 FD 報告書

目次

はじめに	1
目次	2
I 2020年度「学生による授業評価アンケート」実施報告	3
1.実施目的	3
2.実施方法	3
3.「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	6
4.集計結果表	7
(1) 【全学部】	7
(1) 【開講所属別】	8
1) 共通教育科目	8
2) 英語英文学科専門教育科目	10
3) 国際日本文化科専門教育科目	12
4) 現代人間学部共通科目	14
5) 福祉生活デザイン学科専門教育科目	16
6) 心理学科専門教育科目	18
7) こども教育学科専門教育科目	20
8) 生活福祉文化学部専門教育科目	22
9) 心理学部専門教育科目	24
10) 資格科目等	26
II 2020年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告	28
1.実施目的	28
2.実施方法	28
3.「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題	30
4.集計結果表	31
(1) 【全研究科】	31
(2) 【研究科別】	32
1) 人間文化研究科	32
2) 心理学研究科	33
III 2020年度「オープンクラス」実施報告	34
IV 2020年度「FD研修会」実施報告	37
V 大学コンソーシアム京都 第26回FDフォーラム	39
「あらためて大学とは何か～コロナ禍を超えて新しい時代へ～」第7分科会	
「モチベーションクライシスに向き合う」報告（当日資料をまとめた「報告集」より）	
2020年度FD委員会構成員・奥付	43

I 2020（令和2）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

「学生による授業評価アンケート」は、学生の意見を参考にすることで、本学の教育内容や教育方法等の課題を明確にし、教育の質的な向上を図ることを目的に、2008（平成20）年度から継続的に実施されている。

2. 実施方法

1) 実施期間

前期は、2020年7月8日（水）～8月4日（火）、後期は、2021年1月4日（月）～1月26日（火）に実施した。2018年度から「学生による授業評価アンケート」は、紙を配布するのではなく、授業支援システム manaba を利用して、学生がオンライン入力する方法で実施されている。

2) 対象科目・調査対象者

対象科目：2020（令和2）年度に学部にて開講されている全授業科目
（一部の学外実習科目等を除く）

対象者：対象科目の履修生

3) 実施科目数・回収率

開講所属ごとの実施状況は下のとおりである。なお、2020年度は開講所属が10の分類に分かれている。これは2017年度から現代人間学部の3つの学科（心理学科、こども教育学科、福祉生活デザイン学科）のそれぞれの新カリキュラムが始まったことによる。

旧カリキュラムの科目は、生活福祉文化学部専門教育科目と心理学部専門教育科目という開講所属項目名となっている。2020年度これらは2016年度以前の入学生のみが履修する科目として開講されたため、対象科目数も少なく、回答率も低くなっている。

開講所属	対象科目数 (a)	授業評価アンケート実施科目 回答状況		
		対象科目 履修者数	回答数	回答率
共通教育科目	199	8,331	3,150	37.8%
英語英文学科専門教育科目	192	4,711	1,219	25.9%
国際日本文化学科専門教育科目	117	2,527	1,024	40.5%
現代人間学部共通科目	6	580	258	44.5%
福祉生活デザイン学科専門教育科目	159	3,044	1,103	36.2%
心理学科専門教育科目	77	3,199	892	27.9%
こども教育学科専門教育科目	128	3,291	1,219	37.0%
生活福祉文化学部専門教育科目	3	4	0	0.0%
心理学部専門教育科目	2	2	0	0.0%
資格科目等	41	835	322	38.6%
計	924	26,524	9,187	34.6%

4) 調査内容 (学部)

最初に、回答者の属性 (学年・所属学部 (学科)) を尋ね、次に当該科目に関して「授業の状況」「学習の状況」「学習成果 (ND6)」「授業形態項目」「独自設定項目」について尋ねた。設問数は、選択式 16 問 自由記述 2 問である。調査項目の一覧は以下のとおりである。

なお、2020 年度の場合は急きょオンライン授業に切り替わったため、例年の設問に、オンライン授業の場合の但し書きを加えた設問になっているものもある。その変更箇所には、下線を付した。

当該科目に関する調査項目と回答形式

(1) 調査項目

[授業の状況]

- (1) 授業はシラバス (目標・内容・方法など) に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。
- (2) 授業中に使う教材 (テキスト・配布資料など) は、わかりやすかった。
- (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。
- (4) 教員の話し方は、わかりやすかった。
- (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。
- (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。
- (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。

[学習の状況]

- (8) 授業の内容は理解できた。
- (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。
- (10) この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学修しましたか。
[1(4 時間以上)、2(2~4 時間未満)、3(1~2 時間未満)、4(30 分~1 時間未満)、5(30 分未満
6(0 分))]

[学習成果] (4 年間で育てたい力 ND6) 本学では卒業時に身につけておくべき 6 つの力「ND6」を定めています。

- (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。
- (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。
- (13) この授業で、「言語力」が向上した。
- (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。
- (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。
- (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。

[自由記述]

- ・この科目 (授業) について、面白いと感じた点や学びが促進された点、授業を進める中でよかったと感じた点を記入してください (回答にあたっては、「よかった」「悪かった」の印象を書くのではなく、「〇〇が〇〇なので〇〇と感じた」など、なるべく具体的に書いてください)。
- ・この科目 (授業) について、工夫すべき点、改善してほしい点があれば、具体的に記入してください (回答にあたっては、「よかった」「悪かった」の印象を書くのではなく、「〇〇が〇〇なので〇〇と感じた」など、なるべく具体的に書いてください)。

(2) 回答形式

評価項目(1)～(9)と(11)～(16)については、以下の6件法で回答させた。

- 1: そう思う
- 2: どちらかと言えばそう思う
- 3: どちらとも言えない
- 4: どちらかと言えばそう思わない
- 5: そう思わない
- 6: 該当しない

また、(10)の1週間あたりの学修時間については、以下の6件法で回答させた。

- 1: 4時間以上
- 2: 2～4時間未満
- 3: 1～2時間未満
- 4: 30分～1時間未満
- 5: 30分未満
- 6: 0分

5) 実施手順

学部生向けの授業評価アンケート調査は、2018年度からはND教育センターが実施している。具体的には、授業評価アンケートは授業支援システム manaba を利用して実施するという依頼を、ND教育センター事務室が非常勤講師を含む各科目の担当教員にメールで連絡した。

実施期間中の授業において、教員が学生に対してスマホやPCからmanabaにログインしてオンラインで返答するようにとアナウンスすることで、アンケートが実施された。2019年度からは、ND教育センターが、アンケートにアクセスできるURLのQRコードをA3用紙にプリントアウトしたものを用意し、教員が学生へのアンケート依頼のアナウンス時に提示するという工夫も行った。なお、教員が授業中にアナウンスしなかった科目のアンケートも、学生がmanabaにログインすれば自由に回答できた。

6) 結果の集計

結果はmanabaでは自動的に集計されるため、アンケート実施直後から、教員がmanabaにログインすれば自由記述部分も含めてすべて閲覧することができるという点で、紙で実施していた時より即応性があった。

7) 集計結果の教員への周知

アンケート実施直後から、担当教員は担当科目の集計結果をmanabaにログインすれば閲覧できることを、ND教育センター事務室が各科目の担当教員にメールで連絡した。

8) 集計結果の公表と教育改善への活用

教員はアンケート実施直後から閲覧できる、manabaによる集計データや自由記述項目に記載された内容をもとに授業について点検し、改善に向けた今後の取り組みについてフィードバックを行った。そのフィードバックの内容は、manabaの授業評価アンケートの部分に「結果・フィードバック」として、担当教員が書き込んだ。この教員によるフィードバックの内容は、当該科目の受講生が閲覧

することができる。

アンケート結果の利用した教育改善活動としては、主に以下が実施されている。

- 1) 共通教育科目はND教育センターの会議でセンター委員が情報を受け取り検討し、学科専門科目はFD委員会でFD委員が情報を受け取り検討した。各学科のFD委員は、それぞれの学科の専門教育科目の回答（自由記述含）から読み取れる課題について、学科会議等において学科で共有し対策を行った。また、学部長、学科主任が閲覧し、授業改善の検討材料とした。
- 2) 全学で共通する改善要望のうち、manabaやresponの使用方法等については、FD委員会からND教育センターに教員への周知を依頼した。
- 3) 教務課に授業評価アンケートの結果を伝達した（教務委員会における報告等の依頼目的）。
- 4) 年度末には、FD委員長、ND教育センター長、教務委員長を中心に報告「2020年度 授業評価アンケート結果からの課題について」をまとめ、教員に対し今後の授業における改善を求めた。
- 5) 課長会において、授業評価アンケートから抽出された、主に設備面の問題点を関係部局へ伝達し、対策が可能な範囲で配当教室や設備整備の対策を行った。

3. 「学生による授業評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

全学のアンケート集計においては、「授業の状況」の最初の6項目すべてにおいて、1番の「そう思う」と答えた学生が最も人数の多かった回答群となっており、今年度の調査でも本学の授業への満足度の高さが数字で証明された結果となった。また、(9)の「やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった」でも、1番の「そう思う」と答えた学生が73.7%と真面目に授業に出席したと答える学生が多くを占めた。

その一方で、(10)「この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修したか」の設問でも例年と同様に、学修時間の平均は低い数値となっている。ただし、今年度はオンライン授業が実施されたことにより、自宅での学修時間が例年より増加していた。例えば、例年、学修時間が最も長い

「英語英文学科専門科教育目」の平均の授業時間は2020年度の場合、1～2時間と答えた割合が最も多く(34.6%)、2～4時間未満の18.0%と、4時間以上の5.7%と合わせると58.3%が週に2時間程度以上学修したと答えていた。昨年度は「英語英文学科専門科教育科目」のこの割合が52.0%であったため6.3ポイントの増加となっていたことから、オンライン授業によって学修時間が増加したことがわかる。

また、昨年度は回答率が対象科目履修者数22,731中10,448と46.0%だったが、今年度は対象科目履修者数が26,508中9,190と、34.7%に減少した(「3)実施科目数・回収率」の表参照)。これは、オンライン授業での「期日までに出さなければいけない提出物」が増えている中で、「任意の提出でよいアンケート」を出さなかった学生の増加によると考えられる。紙で実施していた2017年度までの約80%の回答率に近づけることを目標に、来年度以降も回答率を上げる努力すると同時に、授業評価アンケートの活用方法の議論を継続することが望ましいであろう。

文責： 吉田智子（国際日本文化学科 FD委員/ND教育センター 副センター長）

2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

全学部

京都ノートルダム女子大学

集計単位	全学部	
履修者数		全科目数
回答者数	9187	実施科目数
対象者数	26524	924

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					合計	所属学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生		
国際言語文化学部	英語英文学科	936 37.3%	529 23.8%	268 18.1%	110 17.5%	1843	26.8%
	国際日本文化学科	978 54.3%	473 41.4%	405 36.2%	109 34.0%	1965	44.1%
生活福祉文化学部				0 0.0%	0	0	0.0%
心理学部				9 7.0%	9	9	7.0%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	846 49.2%	435 37.7%	185 26.6%	56 19.9%	1522	39.5%
	心理学科	1223 42.9%	451 26.0%	195 17.8%	77 19.3%	1946	32.0%
	こども教育学科	1230 52.7%	356 28.8%	280 23.2%	30 10.5%	1896	37.5%
科目等履修生, その他					6	6	18.2%
合計	5213	2244	1333	391	6	9187	34.6%
学年別回答率	46.5%	30.0%	23.8%	17.8%	18.2%		

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない 4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。	1.5	5408	2877	603	97	75	48	9108	79	0.806
			58.9%	31.3%	6.6%	1.1%	0.8%	0.5%	99.1%	0.9%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.8	4622	2994	819	346	214	124	9119	68	1.063
			50.3%	32.6%	8.9%	3.8%	2.3%	1.3%	99.3%	0.7%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.8	4559	2852	1117	261	205	108	9102	81	1.043
			49.6%	31.0%	12.2%	2.8%	2.2%	1.2%	99.1%	0.9%	
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.8	4677	2747	927	308	224	223	9106	81	1.155
			50.9%	29.9%	10.1%	3.4%	2.4%	2.4%	99.1%	0.9%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.8	4493	2863	1061	284	245	152	9098	89	1.103
			48.9%	31.2%	11.5%	3.1%	2.7%	1.7%	99.0%	1.0%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.8	4465	3104	976	311	219	26	9101	86	0.971
			48.6%	33.8%	10.6%	3.4%	2.4%	0.3%	99.1%	0.9%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	3.4	3053	1399	654	164	114	3558	8942	245	2.239
			33.2%	15.2%	7.1%	1.8%	1.2%	38.7%	97.3%	2.7%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.8	3920	3779	918	299	160	21	9097	90	0.904
			42.7%	41.1%	10.0%	3.3%	1.7%	0.2%	99.0%	1.0%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	6769	1387	484	152	88	230	9110	77	1.038
			73.7%	15.1%	5.3%	1.7%	1.0%	2.5%	99.2%	0.8%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。	3.6	361	1382	2803	2395	1522	637	9100	87	1.241
			3.9%	15.0%	30.5%	26.1%	16.6%	6.9%	99.1%	0.9%	

【学習成果(4年間で育てたい力 ND6)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.0	3449	3195	1721	259	219	219	9062	125	1.135
			37.5%	34.8%	18.7%	2.8%	2.4%	2.4%	98.6%	1.4%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	4463	3415	832	155	139	89	9093	94	0.931
			48.6%	37.2%	9.1%	1.7%	1.5%	1.0%	99.0%	1.0%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.5	2757	2676	2087	471	406	664	9061	126	1.452
			30.0%	29.1%	22.7%	5.1%	4.4%	7.2%	98.6%	1.4%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.0	3317	3473	1530	308	204	221	9053	134	1.124
			36.1%	37.8%	16.7%	3.4%	2.2%	2.4%	98.5%	1.5%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.6	2411	2433	2482	526	510	689	9051	136	1.463
			26.2%	26.5%	27.0%	5.7%	5.6%	7.5%	98.5%	1.5%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.3	2728	3033	2195	416	301	402	9075	112	1.280
			29.7%	33.0%	23.9%	4.5%	3.3%	4.4%	98.8%	1.2%	

2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	共通教育科目
------	--------

履修者数	8331	全科目数	
回答者数	3150	実施科目数	199

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生	科目等履修生	
国際言語文化学部	英語英文学科	321 38.8%	108 25.0%	69 18.0%	31 15.7%	529 28.5%
	国際日本文化学科	601 53.7%	81 35.8%	79 36.4%	24 38.7%	785 47.3%
生活福祉文化学部				0 0.0%	0 0.0%	
心理学部				0 0.0%	0 0.0%	
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	434 46.0%	74 30.6%	16 25.8%	2 4.8%	526 40.8%
	心理学科	626 43.1%	86 26.3%	22 13.7%	13 23.6%	747 37.5%
	こども教育学科	482 51.3%	43 21.1%	35 12.5%	1 2.0%	561 38.1%
科目等履修生, その他				2 100.0%	2 100.0%	
合計	2464	392	221	71	2 3150	
学年別回答率	46.7%	27.4%	20.0%	13.8%	100.0%	37.8%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

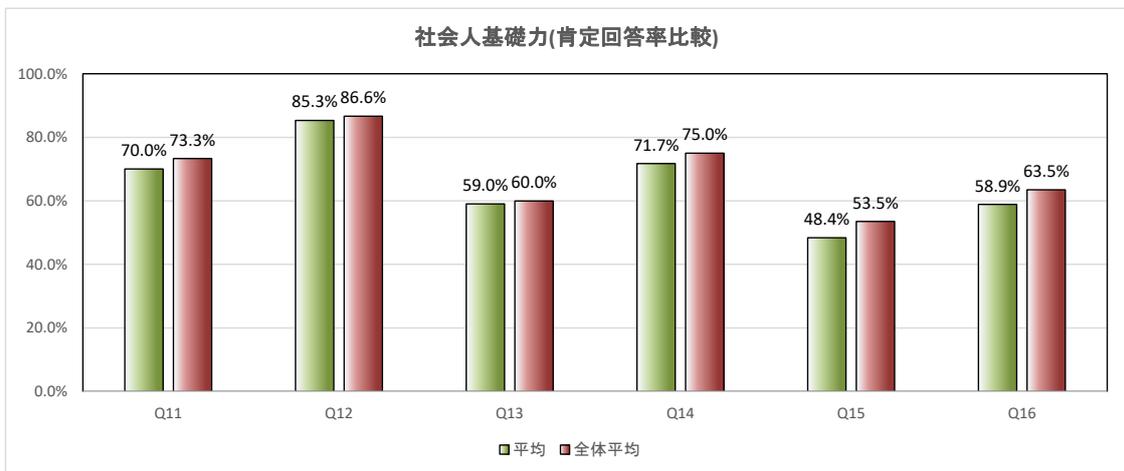
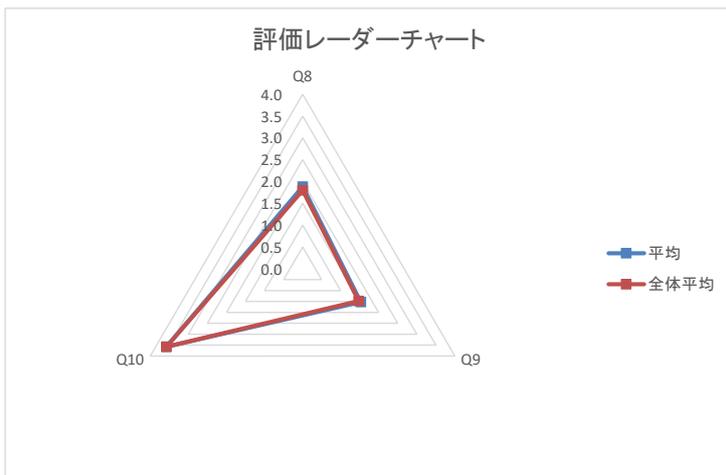
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適量が身に付く機会と適切に示された。	1.5	1840 58.4%	998 31.7%	209 6.6%	37 1.2%	29 0.9%	11 0.3%	3124	26	0.797
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.9	1539 48.9%	1000 31.7%	294 9.3%	157 5.0%	86 2.7%	54 1.7%	3130	20	1.135
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.8	1531 48.6%	954 30.3%	422 13.4%	98 3.1%	83 2.6%	41 1.3%	3129	21	1.083
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.9	1489 47.3%	953 30.3%	380 12.1%	136 4.3%	87 2.8%	83 2.6%	3128	22	1.200
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.9	1453 46.1%	976 31.0%	418 13.3%	104 3.3%	111 3.5%	59 1.9%	3121	29	1.161
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.9	1349 42.8%	1095 34.8%	417 13.2%	148 4.7%	103 3.3%	9 0.3%	3121	29	1.044
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	3.9	802 25.5%	396 12.6%	211 6.7%	45 1.4%	42 1.3%	1557 49.4%	3053	97	2.236

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.9	1231 39.1%	1322 42.0%	359 11.4%	127 4.0%	74 2.3%	7 0.2%	3120	30	0.953
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	2266 71.9%	473 15.0%	190 6.0%	73 2.3%	44 1.4%	81 2.6%	3127	23	1.095
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	3.6	84 2.7%	459 14.6%	1056 33.5%	843 26.8%	448 14.2%	232 7.4%	3122	28	1.197

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.1	1088 34.5%	1088 34.5%	680 21.6%	101 3.2%	90 2.9%	60 1.9%	3107	43	1.122
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.8	1416 45.0%	1243 39.5%	321 10.2%	60 1.9%	53 1.7%	24 0.8%	3117	33	0.926
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.5	930 29.5%	905 28.7%	721 22.9%	167 5.3%	167 5.3%	218 6.9%	3108	42	1.456
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.1	1040 33.0%	1185 37.6%	590 18.7%	120 3.8%	88 2.8%	79 2.5%	3102	48	1.153
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.7	765 24.3%	738 23.4%	956 30.3%	198 6.3%	204 6.5%	245 7.8%	3106	44	1.473
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.4	833 26.4%	1002 31.8%	859 27.3%	150 4.8%	128 4.1%	144 4.6%	3116	34	1.294



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	英語英文学科専門教育科目
------	--------------

履修者数	4711	全科目数	
回答者数	1219	実施科目数	192

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	603 36.5%	381 22.9%	165 17.7%	55 14.6%	1204 25.8%
	国際日本文化学科	1 100.0%	8 57.1%	3 27.3%	1	13 43.3%
生活福祉文化学部				0	0	
心理学部				0	0	
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	2 100.0%	0 0.0%	0	0	2 66.7%
	心理学科	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	こども教育学科	0 0.0%	0 0.0%	0	0.0%	0 0.0%
科目等履修生, その他				0	0	
合計	606	389	168	56	0	1219
学年別回答率	36.6%	23.1%	17.7%	13.3%	0.0%	25.9%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

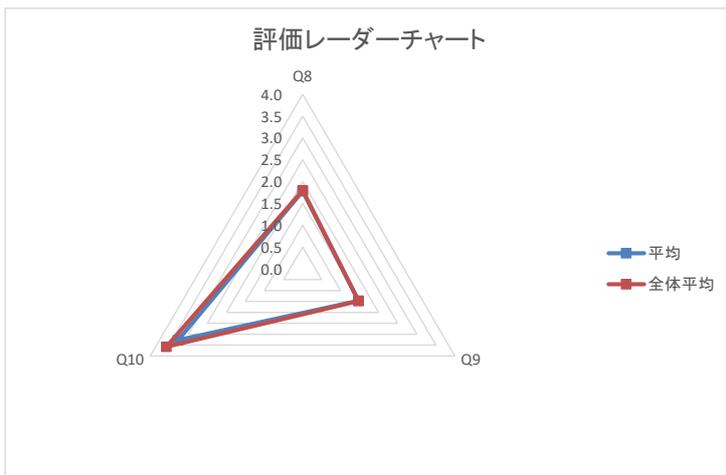
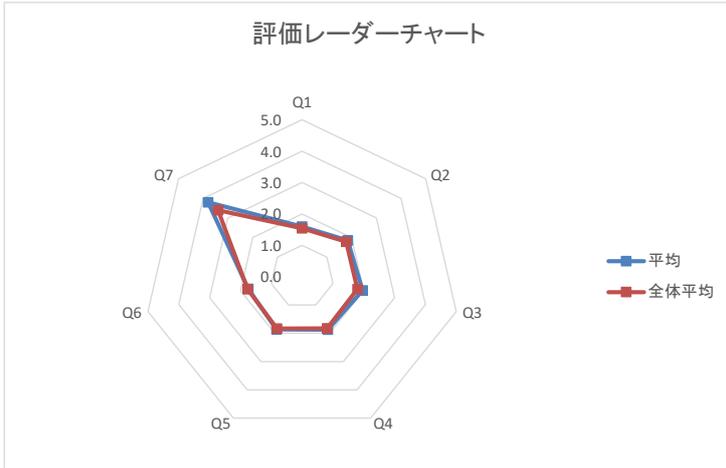
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示された。	1.6	710 58.2%	342 28.1%	86 7.1%	20 1.6%	19 1.6%	12 1.0%	1189	30	0.938
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.8	600 49.2%	386 31.7%	96 7.9%	39 3.2%	43 3.5%	29 2.4%	1193	26	1.186
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	2.0	558 45.8%	357 29.3%	138 11.3%	51 4.2%	61 5.0%	22 1.8%	1187	32	1.232
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.9	639 52.4%	323 26.5%	99 8.1%	50 4.1%	40 3.3%	43 3.5%	1194	25	1.284
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.9	609 50.0%	366 30.0%	91 7.5%	47 3.9%	44 3.6%	33 2.7%	1190	29	1.227
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.7	616 50.5%	384 31.5%	105 8.6%	39 3.2%	38 3.1%	5 0.4%	1187	32	1.016
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	3.8	361 29.6%	125 10.3%	60 4.9%	15 1.2%	18 1.5%	574 47.1%	1153	66	2.297

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.8	558 45.8%	453 37.2%	103 8.4%	44 3.6%	30 2.5%	3 0.2%	1191	28	0.960
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	934 76.6%	151 12.4%	37 3.0%	10 0.8%	4 0.3%	57 4.7%	1193	26	1.165
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	3.3	69 5.7%	220 18.0%	422 34.6%	313 25.7%	132 10.8%	35 2.9%	1191	28	1.146

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.9	504 41.3%	381 31.3%	180 14.8%	34 2.8%	40 3.3%	46 3.8%	1185	34	1.271
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.8	622 51.0%	400 32.8%	80 6.6%	27 2.2%	36 3.0%	25 2.1%	1190	29	1.111
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.1	521 42.7%	347 28.5%	164 13.5%	43 3.5%	46 3.8%	66 5.4%	1187	32	1.396
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.0	482 39.5%	420 34.5%	162 13.3%	41 3.4%	39 3.2%	40 3.3%	1184	35	1.233
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.7	330 27.1%	301 24.7%	251 20.6%	71 5.8%	88 7.2%	137 11.2%	1178	41	1.649
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.3	407 33.4%	402 33.0%	200 16.4%	61 5.0%	43 3.5%	67 5.5%	1180	39	1.375



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	国際日本文化学科専門教育科目
------	----------------

履修者数	2527	全科目数	
回答者数	1024	実施科目数	117

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	所属学科別回答率	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生			
国際言語文化学部	英語英文学科	5 55.6%	8 17.0%	11 18.0%	12 44.4%		36 24.8%
	国際日本文化学科	325 55.6%	324 42.9%	252 36.3%	71 31.8%		972 42.5%
生活福祉文化学部				0			0
心理学部				1 14.3%			1 14.3%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	1 100.0%	4 28.6%	0 0.0%	2 15.4%		7 20.0%
	心理学科	1 50.0%	2 15.4%	2 40.0%	2 18.2%		7 22.6%
	こども教育学科	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%		0 0.0%
科目等履修生, その他					1 7.7%		1 7.7%
合計	332	338	265	88			1024
学年別回答率	55.6%	40.6%	34.3%	28.1%	7.7%		40.5%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

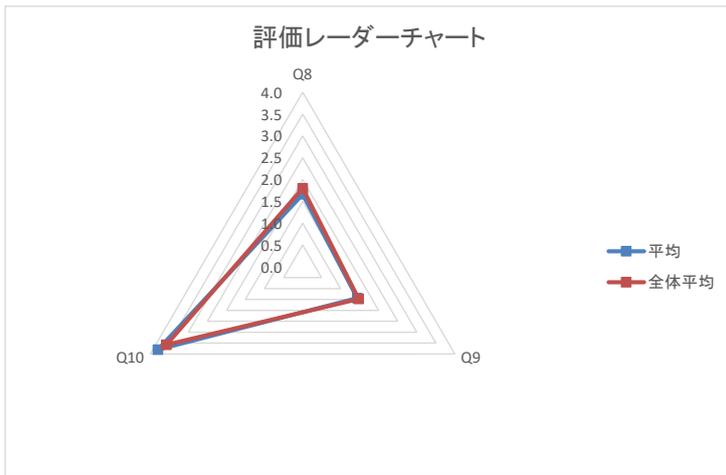
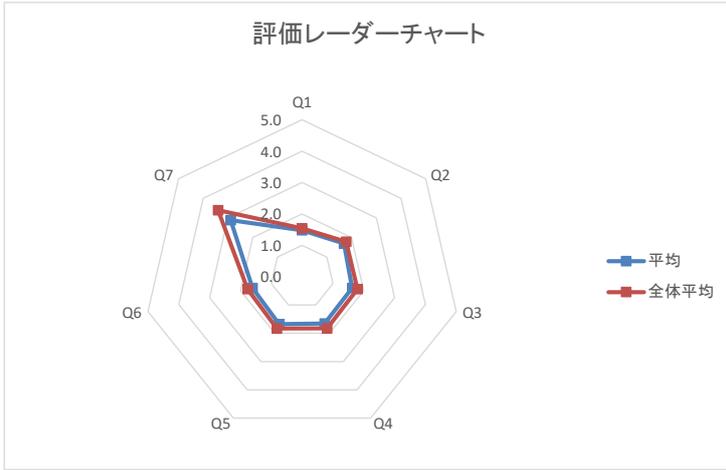
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜がけられた場合に適切に示された。	1.5	647 63.2%	289 28.2%	64 6.3%	10 1.0%	6 0.6%	3 0.3%	1019 99.5%	5 0.5%	0.751
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	563 55.0%	305 29.8%	97 9.5%	31 3.0%	14 1.4%	12 1.2%	1022 99.8%	2 0.2%	0.992
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.6	583 56.9%	297 29.0%	107 10.4%	19 1.9%	7 0.7%	8 0.8%	1021 99.7%	3 0.3%	0.892
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.7	581 56.7%	296 28.9%	95 9.3%	32 3.1%	10 1.0%	9 0.9%	1023 99.9%	1 0.1%	0.946
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.7	578 56.4%	280 27.3%	114 11.1%	31 3.0%	7 0.7%	13 1.3%	1023 99.9%	1 0.1%	0.980
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.6	570 55.7%	336 32.8%	80 7.8%	26 2.5%	7 0.7%	4 0.4%	1023 99.9%	1 0.1%	0.842
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	2.9	441 43.1%	158 15.4%	75 7.3%	21 2.1%	5 0.5%	299 29.2%	999 97.6%	25 2.4%	2.157

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.7	512 50.0%	390 38.1%	89 8.7%	22 2.1%	9 0.9%	1 0.1%	1023 99.9%	1 0.1%	0.808
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.4	749 73.1%	174 17.0%	54 5.3%	20 2.0%	7 0.7%	15 1.5%	1019 99.5%	5 0.5%	0.921
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	3.8	27 2.6%	139 13.6%	253 24.7%	295 28.8%	214 20.9%	96 9.4%	1024 100.0%	0 0.0%	1.254

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.9	389 38.0%	320 31.3%	210 20.5%	30 2.9%	23 2.2%	50 4.9%	1022 99.8%	2 0.2%	1.292
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	539 52.6%	329 32.1%	112 10.9%	14 1.4%	10 1.0%	15 1.5%	1019 99.5%	5 0.5%	0.963
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.3	366 35.7%	301 29.4%	218 21.3%	45 4.4%	17 1.7%	69 6.7%	1016 99.2%	8 0.8%	1.386
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.1	377 36.8%	355 34.7%	191 18.7%	37 3.6%	16 1.6%	42 4.1%	1018 99.4%	6 0.6%	1.223
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.8	236 23.0%	248 24.2%	317 31.0%	63 6.2%	43 4.2%	108 10.5%	1015 99.1%	9 0.9%	1.519
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.2	351 34.3%	324 31.6%	222 21.7%	51 5.0%	22 2.1%	50 4.9%	1020 99.6%	4 0.4%	1.299



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	現代人間学部共通科目
------	------------

履修者数	580	全科目数	
回答者数	258	実施科目数	6

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	所属学科別回答率	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生			
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	1	0		1
				25.0%			25.0%
	国際日本文化学科	0	0	1	0		1
				33.3%	0.0%		25.0%
生活福祉文化学部					0		0
心理学部					0		0
					0.0%		0.0%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	59	3	0	1		63
		42.1%	21.4%		33.3%		40.1%
	心理学科	99	2	3	2		106
		49.3%	18.2%	17.6%	22.2%		44.5%
こども教育学科	83	3	1	0		87	
		54.6%	21.4%	25.0%	0.0%		49.4%
科目等履修生, その他						0	0
合計		241	8	6	3	0	258
学年別回答率		48.9%	20.5%	21.4%	14.3%		44.5%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

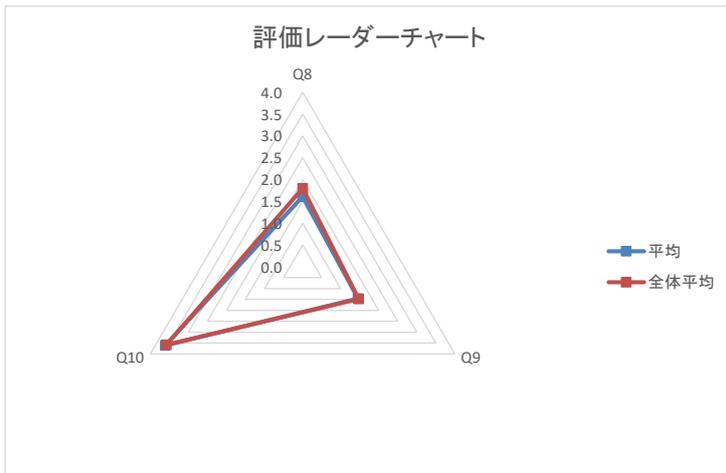
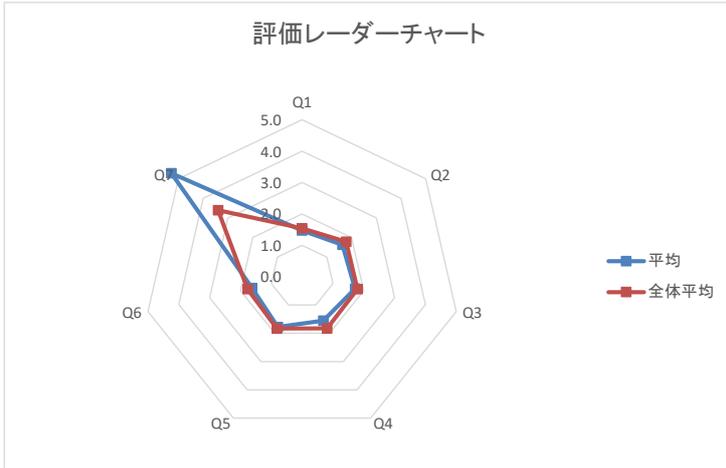
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、学習が十分な機会を適切に与えている。	1.5	160	79	14	1	0	2	256	2	0.735
			62.0%	30.6%	5.4%	0.4%	0.0%	0.8%	99.2%	0.8%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.6	139	90	17	6	0	4	256	2	0.906
			53.9%	34.9%	6.6%	2.3%	0.0%	1.6%	99.2%	0.8%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.7	129	87	30	2	1	5	254	4	0.965
			50.0%	33.7%	11.6%	0.8%	0.4%	1.9%	98.4%	1.6%	
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.6	144	88	21	1	1	1	256	2	0.749
			55.8%	34.1%	8.1%	0.4%	0.4%	0.4%	99.2%	0.8%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.8	116	99	31	5	2	3	256	2	0.929
			45.0%	38.4%	12.0%	1.9%	0.8%	1.2%	99.2%	0.8%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.6	132	96	22	5	1	0	256	2	0.757
			51.2%	37.2%	8.5%	1.9%	0.4%	0.0%	99.2%	0.8%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	5.3	21	9	12	0	2	206	250	8	1.617
			8.1%	3.5%	4.7%	0.0%	0.8%	79.8%	96.9%	3.1%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.6	118	120	18	0	0	0	256	2	0.617
			45.7%	46.5%	7.0%	0.0%	0.0%	0.0%	99.2%	0.8%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	192	40	10	6	1	7	256	2	1.032
			74.4%	15.5%	3.9%	2.3%	0.4%	2.7%	99.2%	0.8%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	3.6	1	35	100	62	43	15	256	2	1.108
			0.4%	13.6%	38.8%	24.0%	16.7%	5.8%	99.2%	0.8%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	1.7	110	102	39	3	0	1	255	3	0.800
			42.6%	39.5%	15.1%	1.2%	0.0%	0.4%	98.8%	1.2%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.6	122	111	21	1	0	0	256	2	0.686
			47.3%	43.0%	8.1%	0.4%	0.4%	0.0%	99.2%	0.8%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.7	55	73	81	11	12	23	255	3	1.451
			21.3%	28.3%	31.4%	4.3%	4.7%	8.9%	98.8%	1.2%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	1.9	89	124	36	4	0	2	255	3	0.812
			34.5%	48.1%	14.0%	1.6%	0.0%	0.8%	98.8%	1.2%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.3	73	90	63	4	10	15	255	3	1.333
			28.3%	34.9%	24.4%	1.6%	3.9%	5.8%	98.8%	1.2%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.2	66	95	73	15	3	4	256	2	1.038
			25.6%	36.8%	28.3%	5.8%	1.2%	1.6%	99.2%	0.8%	



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	福祉生活デザイン学科専門科目		
履修者数	3044	全科目数	
回答者数	1103	実施科目数	159

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	所属学科別回答率	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生			
国際言語文化学部	英語英文学科	0	2	1	1		4
			66.7%	20.0%	12.5%		25.0%
国際日本文化学部	国際日本文化学科	1	1	2	1		5
		100.0%	11.1%	16.7%	12.5%		16.1%
生活福祉文化学部					0		0
心理学部					0		0.0%
					1		11.1%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	339	348	167	49		903
		55.1%	40.0%	27.5%	23.4%		39.3%
	心理学科	30	83	38	21		172
		53.6%	33.2%	21.2%	19.4%		29.0%
	こども教育学科	0	13	2	3		18
			39.4%	18.2%	10.3%		24.7%
科目等履修生, その他					0		0
					0		0.0%
合計	370	447	210	76	0		1103
学年別回答率	55.1%	38.4%	25.8%	19.6%	0.0%		36.2%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

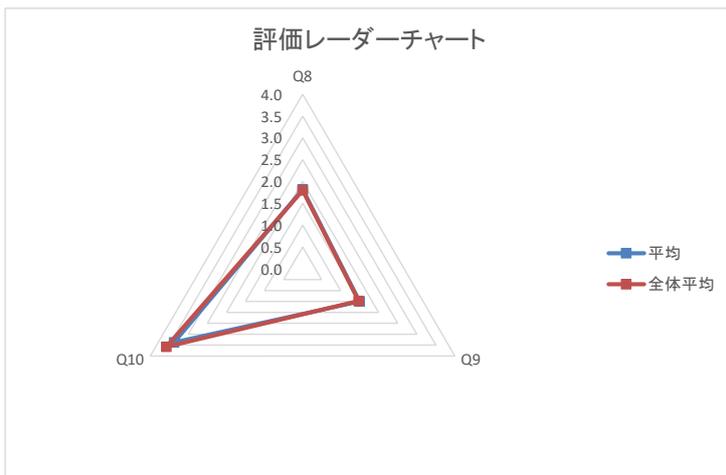
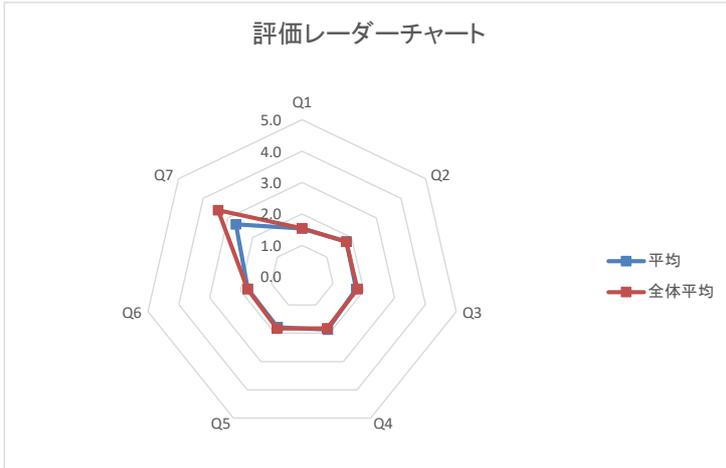
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差	
			1	2	3	4	5	6				
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示された。	1.5	644	363	77	8	5	6	5	1103	0	0.767
			58.4%	32.9%	7.0%	0.7%	0.5%	0.5%	100.0%	0.0%		
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.8	548	358	111	51	21	11	11	1100	3	1.037
			49.7%	32.5%	10.1%	4.6%	1.9%	1.0%	99.7%	0.3%		
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.8	547	366	133	26	14	12	12	1098	5	0.971
			49.6%	33.2%	12.1%	2.4%	1.3%	1.1%	99.5%	0.5%		
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.9	563	319	124	24	24	45	45	1099	4	1.245
			51.0%	28.9%	11.2%	2.2%	2.2%	4.1%	99.6%	0.4%		
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.8	566	334	128	33	16	23	23	1100	3	1.083
			51.3%	30.3%	11.6%	3.0%	1.5%	2.1%	99.7%	0.3%		
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.8	537	376	134	26	23	5	5	1101	2	0.953
			48.7%	34.1%	12.1%	2.4%	2.1%	0.5%	99.8%	0.2%		
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	2.7	496	204	98	16	11	268	268	1093	10	2.040
			45.0%	18.5%	8.9%	1.5%	1.0%	24.3%	99.1%	0.9%		

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差	
			1	2	3	4	5	6				
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.8	456	456	132	36	11	5	5	1096	7	0.894
			41.3%	41.3%	12.0%	3.3%	1.0%	0.5%	99.4%	0.6%		
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.5	764	213	85	13	8	18	18	1101	2	0.944
			69.3%	19.3%	7.7%	1.2%	0.7%	1.6%	99.8%	0.2%		
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	3.4	75	213	305	268	203	34	34	1098	5	1.261
			6.8%	19.3%	27.7%	24.3%	18.4%	3.1%	99.5%	0.5%		

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差	
			1	2	3	4	5	6				
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.4	447	393	191	24	21	20	20	1096	7	1.064
			40.5%	35.6%	17.3%	2.2%	1.9%	1.8%	99.4%	0.6%		
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	570	397	95	18	11	9	9	1100	3	0.882
			51.7%	36.0%	8.6%	1.6%	1.0%	0.8%	99.7%	0.3%		
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.6	313	314	256	55	55	99	99	1092	11	1.521
			28.4%	28.5%	23.2%	5.0%	5.0%	9.0%	99.0%	1.0%		
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.0	417	397	200	37	26	17	17	1094	9	1.078
			37.8%	36.0%	18.1%	3.4%	2.4%	1.5%	99.2%	0.8%		
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.4	360	301	268	59	52	55	55	1095	8	1.374
			32.6%	27.3%	24.3%	5.3%	4.7%	5.0%	99.3%	0.7%		
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.2	374	357	263	34	31	39	39	1098	5	1.222
			33.9%	32.4%	23.8%	3.1%	2.8%	3.5%	99.5%	0.5%		



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	心理学科専門教育科目
------	------------

履修者数	3199	全科目数	
回答者数	892	実施科目数	77

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計	所属学科別回答率
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生			
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	1	1	2	25.0%
	国際日本文化学科	2	1	1	1	5	50.0%
生活福祉文化学部					0	0	
心理学部					4	4	8.3%
					8.3%	8.3%	
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0	0	0	0	0.0%
	心理学科	442	269	128	37	876	28.2%
	こども教育学科	0	0	1	1	2	20.0%
科目等履修生, その他					0	0	0.0%
合計	444	270	131	44	889	889	27.8%
学年別回答率	40.6%	24.4%	17.8%	17.0%	0.0%		

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

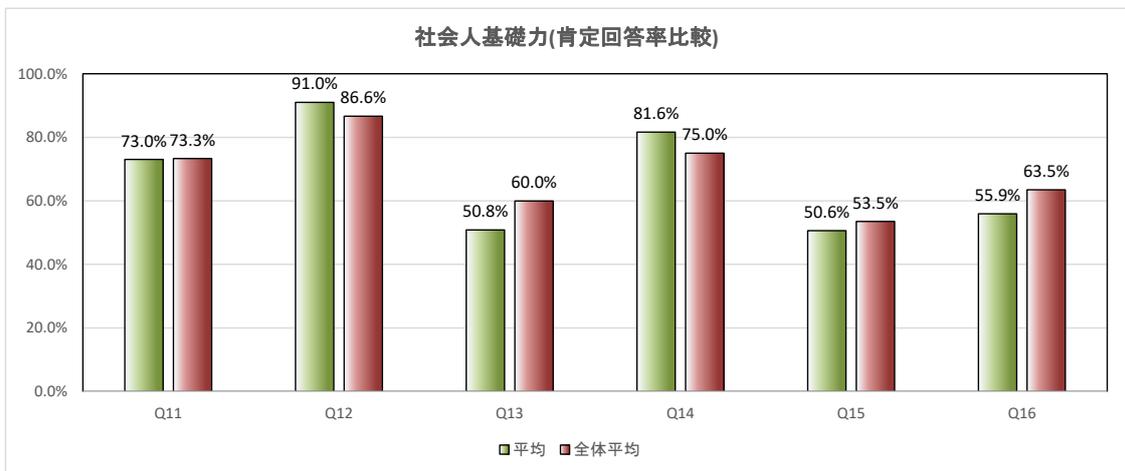
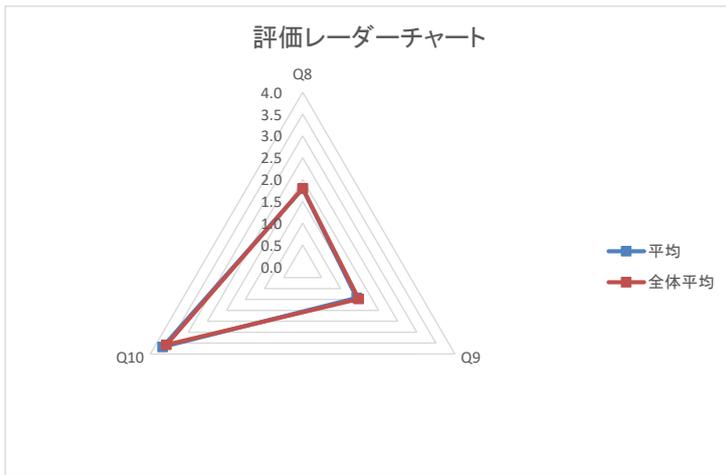
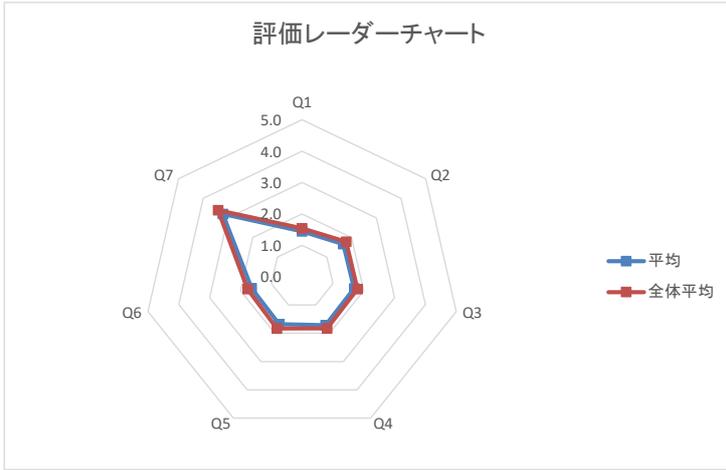
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜がけられた場合に示す	1.4	557	296	27	5	5	5	891	-2	0.683
			62.4%	33.2%	3.0%	0.6%	0.1%	0.6%	100.2%	-0.2%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	465	327	60	16	18	5	891	-2	0.906
			52.1%	36.7%	6.7%	1.8%	2.0%	0.6%	100.2%	-0.2%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.7	445	326	87	17	11	3	889	0	0.862
			49.9%	36.5%	9.8%	1.9%	1.2%	0.3%	100.0%	0.0%	
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.7	463	312	61	20	14	17	887	2	1.025
			51.9%	35.0%	6.8%	2.2%	1.6%	1.9%	99.8%	0.2%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.7	455	323	78	12	15	6	889	0	0.901
			51.0%	36.2%	8.7%	1.3%	1.7%	0.7%	100.0%	0.0%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.6	470	320	65	28	8	1	892	-3	0.834
			52.7%	35.9%	7.3%	3.1%	0.9%	0.1%	100.3%	-0.3%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	3.2	306	164	67	22	11	305	875	14	2.182
			34.3%	18.4%	7.5%	2.5%	1.2%	34.2%	98.4%	1.6%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.8	348	434	71	26	7	4	890	-1	0.829
			39.0%	48.7%	8.0%	2.9%	0.8%	0.4%	100.1%	-0.1%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.4	689	127	33	10	7	25	891	-2	1.021
			77.2%	14.2%	3.7%	1.1%	0.8%	2.8%	100.2%	-0.2%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。	3.7	33	115	258	252	167	65	890	-1	1.231
			3.7%	12.9%	28.9%	28.3%	18.7%	7.3%	100.1%	-0.1%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	3.3	315	327	172	36	19	10	879	10	1.046
			35.3%	36.7%	19.3%	4.0%	2.1%	1.1%	98.9%	1.1%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.6	437	371	63	10	7	0	888	1	0.734
			49.0%	41.6%	7.1%	1.1%	0.8%	0.0%	99.9%	0.1%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.7	180	269	240	88	50	56	883	6	1.387
			20.2%	30.2%	26.9%	9.9%	5.6%	6.3%	99.3%	0.7%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	1.9	334	386	117	22	11	12	882	7	0.965
			37.4%	43.3%	13.1%	2.5%	1.2%	1.3%	99.2%	0.8%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.7	205	241	252	67	63	53	881	8	1.412
			23.0%	27.0%	28.3%	7.5%	7.1%	5.9%	99.1%	0.9%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.5	215	280	254	52	39	45	885	4	1.315
			24.1%	31.4%	28.5%	5.8%	4.4%	5.0%	99.6%	0.4%	



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	こども教育学科専門教育科目
------	---------------

履修者数	3291	全科目数	
回答者数	1219	実施科目数	128

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	0	0	0
	国際日本文化学科	0	0	0	0	0
生活福祉文化学部						0
心理学部						3
						37.5%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0	0	0	0
	心理学科	0	0	0	0	0
	こども教育学科	659	293	239	25	1216
						37.1%
科目等履修生, その他						0
						0.0%
合計						659
						293
						239
						28
						0
学年別回答率						53.7%
						30.2%
						26.8%
						14.0%
						0.0%
						37.0%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

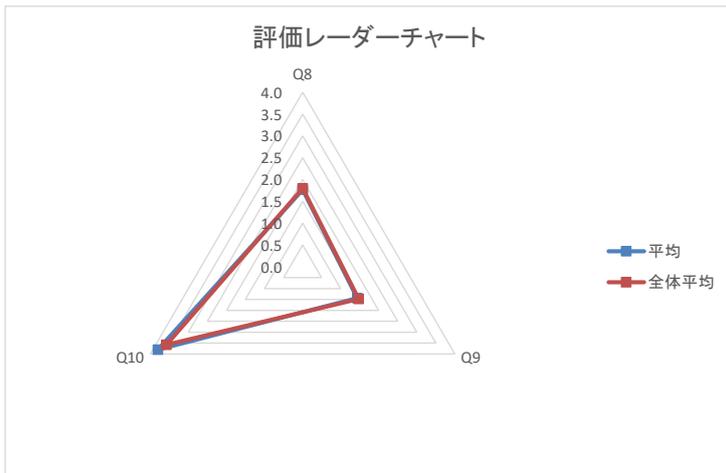
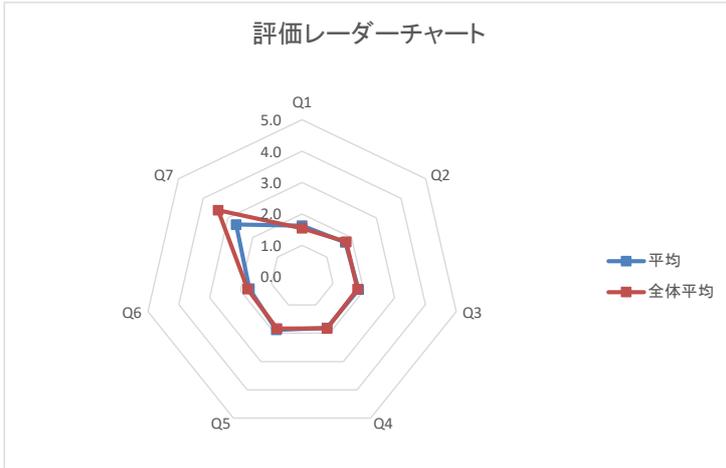
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、学習が得られる機会が適切に与えられている。	1.6	647	440	97	12	12	8	1216	3	0.839
			53.1%	36.1%	8.0%	1.0%	1.0%	0.7%	99.8%	0.2%	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	592	447	112	32	24	9	1216	3	0.958
			48.6%	36.7%	9.2%	2.6%	2.0%	0.7%	99.8%	0.2%	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.8	580	394	162	36	27	15	1214	5	1.049
			47.6%	32.3%	13.3%	3.0%	2.2%	1.2%	99.6%	0.4%	
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.8	624	375	112	30	44	22	1207	12	1.137
			51.2%	30.8%	9.2%	2.5%	3.6%	1.8%	99.0%	1.0%	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.9	545	412	164	34	44	10	1209	10	1.071
			44.7%	33.8%	13.5%	2.8%	3.6%	0.8%	99.2%	0.8%	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.7	620	421	106	31	32	1	1211	8	0.932
			50.9%	34.5%	8.7%	2.5%	2.6%	0.1%	99.3%	0.7%	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	2.7	488	300	103	32	20	267	1210	9	1.958
			40.0%	24.6%	8.4%	2.6%	1.6%	21.9%	99.3%	0.7%	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.8	547	486	117	34	25	1	1210	9	0.898
			44.9%	39.9%	9.6%	2.8%	2.1%	0.1%	99.3%	0.7%	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.4	915	179	65	15	16	22	1212	7	0.974
			75.1%	14.7%	5.3%	1.2%	1.3%	1.8%	99.4%	0.6%	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。	3.8	50	152	320	289	262	136	1209	10	1.330
			4.1%	12.5%	26.3%	23.7%	21.5%	11.2%	99.2%	0.8%	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.2	488	490	170	21	22	19	1210	9	1.008
			40.0%	40.2%	13.9%	1.7%	1.8%	1.6%	99.3%	0.7%	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.7	584	466	113	19	21	11	1214	5	0.931
			47.9%	38.2%	9.3%	1.6%	1.7%	0.9%	99.6%	0.4%	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.5	319	396	302	42	49	105	1213	6	1.459
			26.2%	32.5%	24.8%	3.4%	4.0%	8.6%	99.5%	0.5%	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.0	458	488	184	38	19	23	1210	9	1.049
			37.6%	40.0%	15.1%	3.1%	1.6%	1.9%	99.3%	0.7%	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.3	365	430	280	40	41	57	1213	6	1.281
			29.9%	35.3%	23.0%	3.3%	3.4%	4.7%	99.5%	0.5%	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.1	393	478	237	35	30	39	1212	7	1.165
			32.2%	39.2%	19.4%	2.9%	2.5%	3.2%	99.4%	0.6%	



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	生活福祉文化学部専門教育科目
------	----------------

履修者数	4	全科目数	
回答者数	0	実施科目数	3

学部学科		上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	所属学科別回答率	合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生			
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	0	0			0
	国際日本文化学科	0	0	0	0			0
生活福祉文化学部						0	0.0%	0
心理学部						0	0.0%	0
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0	0	0			0
	心理学科	0	0	0	0			0
	こども教育学科	0	0	0	0			0
科目等履修生, その他						0		0
合計		0	0	0	0	0		0
学年別回答率					0.0%			0.0%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

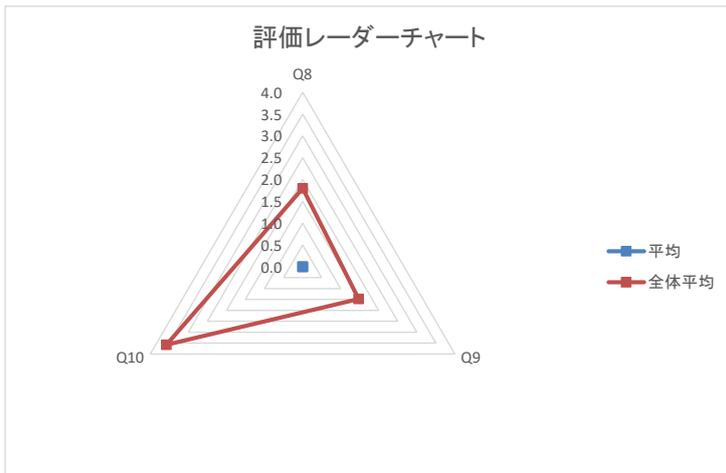
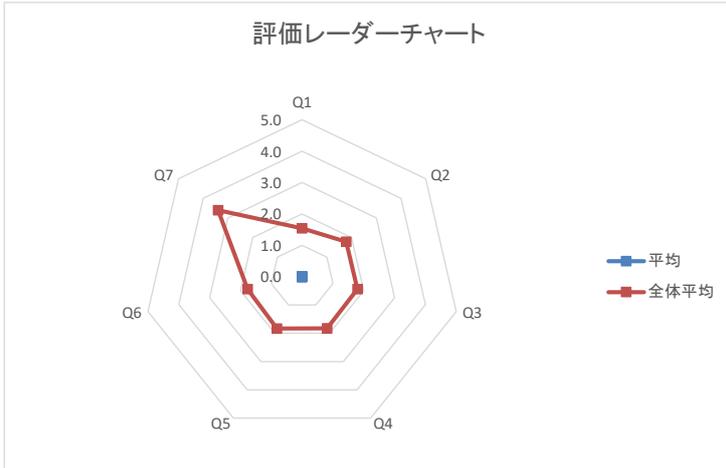
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示された。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	心理学部専門教育科目
------	------------

履修者数	2	全科目数	
回答者数	0	実施科目数	2

学部学科		上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	所属学科別回答率	合計
		1年次生	2年次生	3年次生	4年次生			
国際言語文化学部	英語英文学科	0	0	0	0			0
	国際日本文化学科	0	0	0	0			0
生活福祉文化学部						0		0
心理学部					0.0%			0.0%
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	0	0	0	0			0
	心理学科	0	0	0	0			0
	こども教育学科	0	0	0	0			0
科目等履修生, その他						0		0
合計		0	0	0	0	0		0
学年別回答率					0.0%			0.0%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

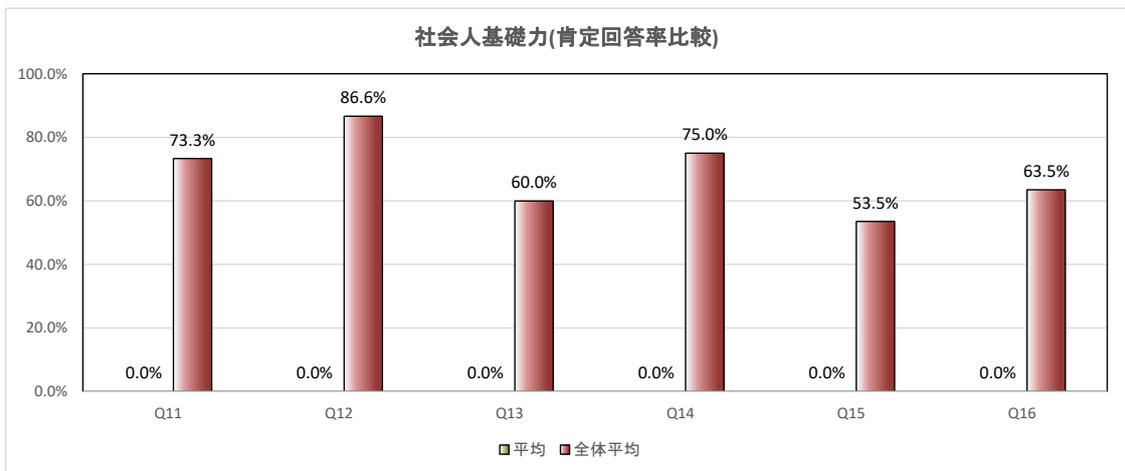
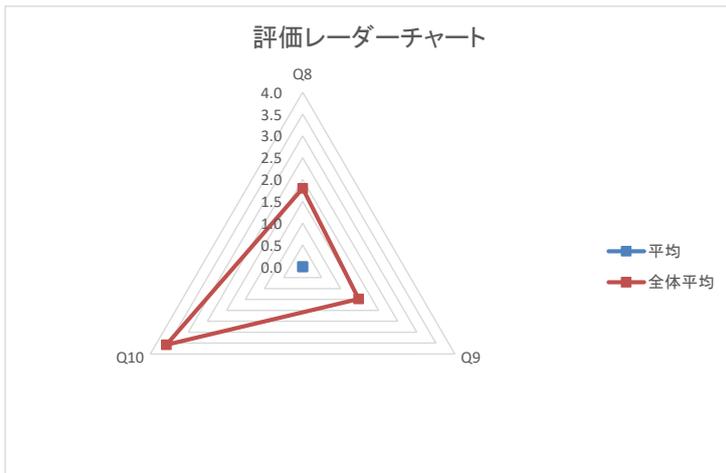
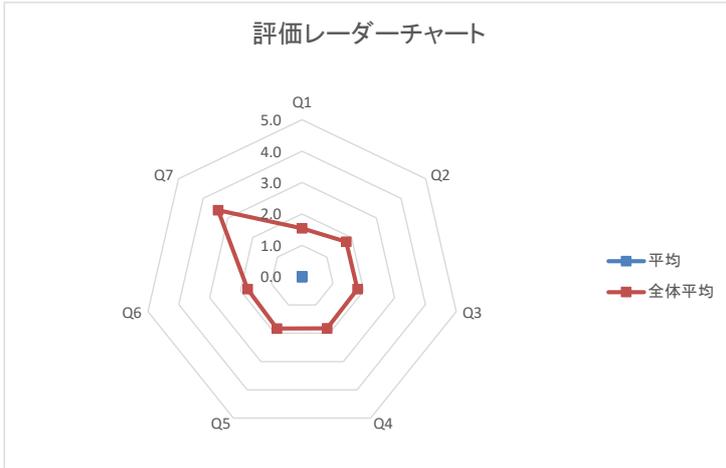
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示された。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	



2020年度 学生による授業評価アンケート集計結果表

開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位	資格科目等		
履修者数	835	全科目数	
回答者数	322	実施科目数	41

学部学科	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)				科目等履修生	合計
	1年次生	2年次生	3年次生	4年次生		
国際言語文化学部	英語英文学科	7 30.4%	30 42.9%	20 23.3%	10 71.4%	67 34.5%
	国際日本文化学科	48 52.7%	58 42.3%	67 37.9%	11 44.0%	184 42.5%
生活福祉文化学部				0	0	
心理学部				0	0	
現代人間学部	福祉生活デザイン学科	11 55.0%	6 66.7%	2 14.3%	2 13.3%	21 36.2%
	心理学科	25 45.5%	9 26.5%	2 25.0%	2 13.3%	38 33.9%
	こども教育学科	6 50.0%	4 66.7%	2 12.5%	0 0.0%	12 31.6%
科目等履修生, その他					0	
合計	97	107	93	25	0	322
学年別回答率	48.3%	41.8%	30.9%	32.1%		38.6%

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

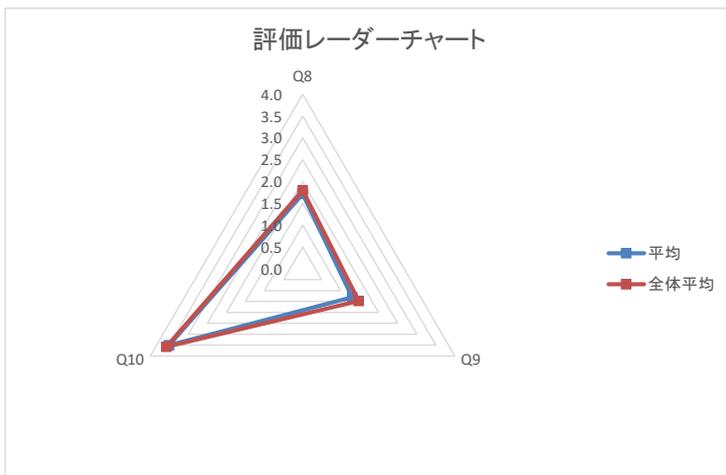
No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q1	(1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適量が身に付く機会が適切に与えられている。	1.5	203 63.0%	70 21.7%	29 9.0%	4 1.2%	2 0.6%	2 0.6%	310 96.3%	12 3.7%	0.850
Q2	(2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。	1.7	176 54.7%	81 25.2%	32 9.9%	14 4.3%	8 2.5%	0 0.0%	311 96.6%	11 3.4%	0.998
Q3	(3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。	1.6	186 57.8%	71 22.0%	38 11.8%	12 3.7%	1 0.3%	2 0.6%	310 96.3%	12 3.7%	0.938
Q4	(4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。	1.7	174 54.0%	81 25.2%	35 10.9%	15 4.7%	4 1.2%	3 0.9%	312 96.9%	10 3.1%	1.030
Q5	(5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。	1.8	171 53.1%	73 22.7%	37 11.5%	18 5.6%	6 1.9%	5 1.6%	310 96.3%	12 3.7%	1.141
Q6	(6) 授業は興味関心の持てる内容であった。	1.7	171 53.1%	76 23.6%	47 14.6%	8 2.5%	7 2.2%	1 0.3%	310 96.3%	12 3.7%	0.996
Q7	(7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。	2.8	138 42.9%	43 13.4%	28 8.7%	13 4.0%	5 1.6%	82 25.5%	309 96.0%	13 4.0%	2.100

【学習の状況】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q8	(8) 授業の内容は理解できた。	1.7	150 46.6%	118 36.6%	29 9.0%	10 3.1%	4 1.2%	0 0.0%	311 96.6%	11 3.4%	0.860
Q9	(9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。	1.3	260 80.7%	30 9.3%	10 3.1%	5 1.6%	1 0.3%	5 1.6%	311 96.6%	11 3.4%	0.857
Q10	(10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。	3.5	22 6.8%	49 15.2%	89 27.6%	73 22.7%	53 16.5%	24 7.5%	310 96.3%	12 3.7%	1.343

【学習成果 (社会人基礎力)】

No.	設問文	全体平均	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)						有効回答	無効回答	標準偏差
			1	2	3	4	5	6			
Q11	(11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。	2.4	108 33.5%	94 29.2%	79 24.5%	10 3.1%	4 1.2%	13 4.0%	308 95.7%	14 4.3%	1.226
Q12	(12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。	1.6	173 53.7%	98 30.4%	27 8.4%	6 1.9%	0 0.0%	5 1.6%	309 96.0%	13 4.0%	0.922
Q13	(13) この授業で、「言語力」が向上した。	2.7	73 22.7%	71 22.0%	105 32.6%	20 6.2%	10 3.1%	28 8.7%	307 95.3%	15 4.7%	1.454
Q14	(14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。	2.0	120 37.3%	118 36.6%	50 15.5%	9 2.8%	5 1.6%	6 1.9%	308 95.7%	14 4.3%	1.062
Q15	(15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。	2.5	77 23.9%	84 26.1%	95 29.5%	24 7.5%	9 2.8%	19 5.9%	308 95.7%	14 4.3%	1.351
Q16	(16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。	2.3	89 27.6%	95 29.5%	87 27.0%	18 5.6%	5 1.6%	14 4.3%	308 95.7%	14 4.3%	1.252



II 2020年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

「大学院生による教育評価アンケート」は、大学院における教育内容の改善及び教育プログラムの充実に役立てることを目的に実施している。

2. 実施方法

1) 実施期間

2020年12月9日(水)～2021年1月15日(金)

2) 調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

3) 在籍者数・回収数・回収率

研究科	専攻科	在籍者数 (名)	回答者数 (名)	回答率
人間文化研究科	応用英語専攻	1	1	100.0%
	人間文化専攻	3	1	33.3%
	生活福祉文化専攻	1	1	100.0%
	研究科計	5	3	60.0%
心理学研究科	発達・学校心理学専攻	1	0	0.0%
	臨床心理学専攻	19	8	42.1%
	心理学専攻	1	0	0.0%
	専攻不明	-	1	-
	研究科計	21	9	42.9%
計		26	12	46.2%

4) 調査内容

調査項目については、FD委員会にて検討した。昨年度実施分の調査項目に、自由記述①「ご自身のキャリア形成や大学による就職支援等について、ご意見、ご希望等があれば入力してください。」を追加した。これは、例年、本調査においては大学院生へのキャリア支援のあり方が課題とされるためである。冒頭で、回答者の属性(学年・所属研究科(専攻))を尋ね、続いて以下の項目について尋ねた。設問は選択式10問、自由記述3問であった。

調査項目

(1) 評価項目

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
- ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである

- ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
- ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている
- ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている
- ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている
- ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
- ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている
- ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている
- ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

選択式設問①～⑩は、以下の 5 件法で回答を求めた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない

自由記述

- ① ご自身のキャリア形成や大学による就職支援等について、ご意見、ご希望等があれば入力してください。
- ② あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください。
- ③ あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください。

5) 実施手順

実施に当たっては、研究・情報推進課にてオンラインアンケートツール SurveyMonkey にアンケートを作成し、大学院生に回答を依頼するメールを送信した。

6) 結果の集計

研究・情報推進課にて集計し、集計結果シートを作成した。

7) 集計結果の配付と活用

- ・ 集計結果は、FD 委員を通じて研究科に報告し各研究科における対応を依頼した。
- ・ 学内の wi-fi 環境の指摘については、システム管理課に確認を依頼しネットワークの状況に問題がないことを確認した。
- ・ キャリアセンター推進委員会に集計結果を報告し、対応の検討を依頼した。

4. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

大学院全体のアンケート結果から、選択式設問においては、「Q1.学位取得のための道筋が明確に示されている」、「Q2.提示されたカリキュラムは納得のいくものである」、「Q4.提供される科目の授業内容が明確に示されている」、「Q5.ここの授業はシラバスに準拠して適切に進められている」、「Q6.研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている」、「Q9.自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」の6項目において4ポイント以上の高い値を示していた。Q1.とQ9.は、昨年も4ポイント以上であったが、その他の4項目は、昨年度よりも高い値となった。これは、全ての研究科に共通して認められた結果であり、全学的にカリキュラムや授業内容について、具体的、かつ明確に提示されていることが示されている。一方、4ポイント未満の項目の中でもどうに低い値を示していたのは、「Q3.授業時間割はバランスよく配置されている」で、昨年度良い0.6ポイント下回る3.2ポイントであった。これは、研究科および専攻別で差があり、特に心理学研究科で2.9ポイントと低い値を示していた。これは、2020年度より臨床心理士養成カリキュラムに加え、公認心理師養成カリキュラムも同時運営されることとなり、授業時間割が複雑になったことが背景にあると考えられる。また、例年低い評価となっている「Q10.キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている」に関しては、今年度も3.6ポイントと低い値となっているが、昨年度を比べると0.4ポイント上昇している。

自由記述では、「良かった点」として、教員から研究に必要な知識を十分に得ることができたこと、指導体制について教員との接点が持ちやすく、指導が受けやすいことなどが述べられていた。「改善すべき点」として、キャリア形成に関する指導や相談を求める声があがっていた。

選択式設問、自由記述ともにキャリア形成に関する改善が必要であるという結果が見られた。キャリア形成は、各研究科によってその形成のプロセスがかなり異なる点もあるが、ディプロマを取得した後のキャリアプランについては、大学院生の主体性を促す形でその専門性を生かしたプランを具体的にイメージできるよう、各研究科及びキャリアセンター等で改めて対策を講じる必要があるであろう。

文責：村松 朋子（現代人間学部 心理学科 FD委員）

■専攻

回答者数 12

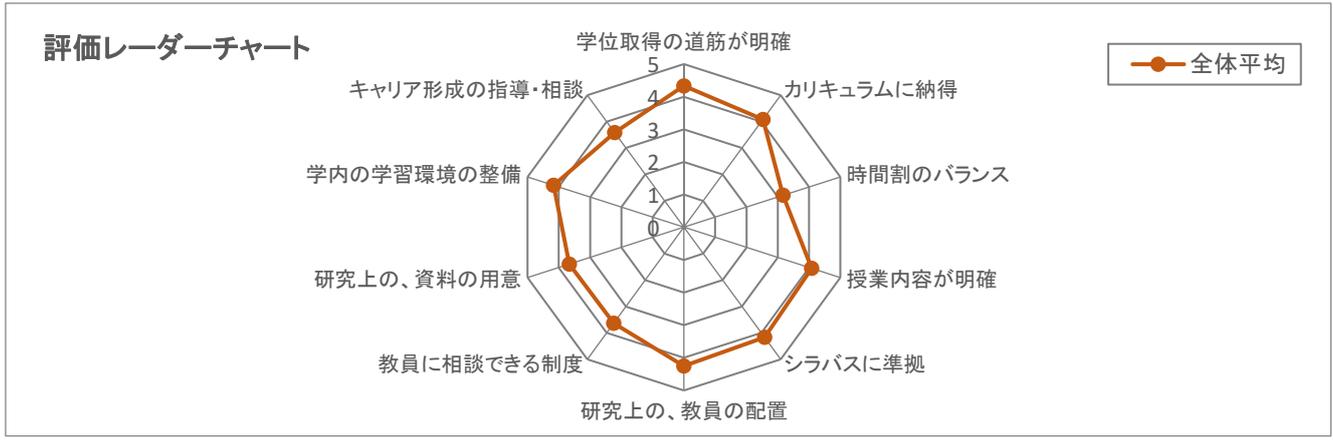
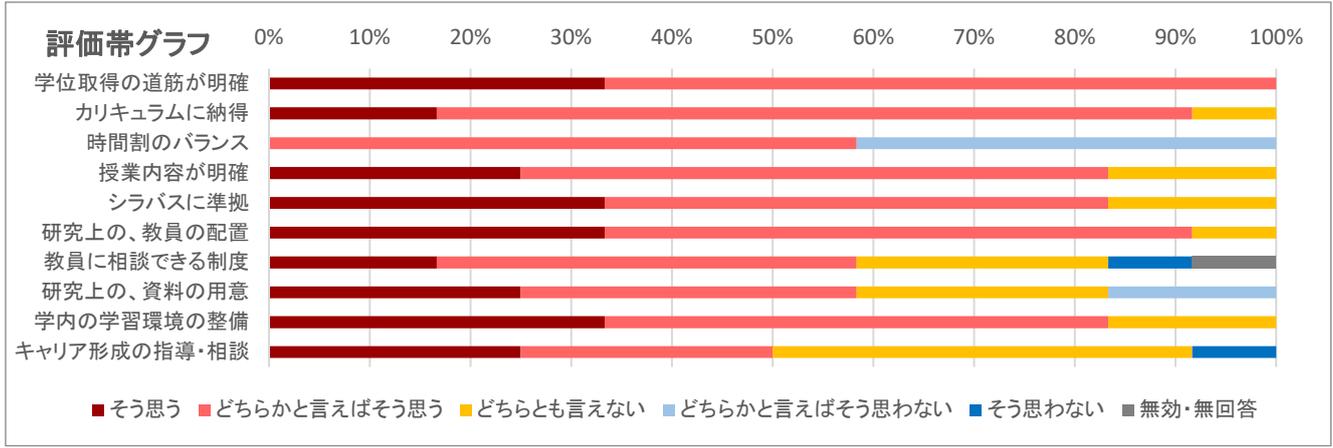
応用英語専攻		生活福祉文化専攻		人間文化専攻		発達・学校心理学専攻		臨床心理学専攻		心理学専攻		科目等履修生		計
1	8.3%	1	8.3%	1	8.3%	0	0.0%	8	66.7%	1	8.3%	0	0.0%	12

■学年

修士課程(M1)		修士課程(M2)		博士前期課程(M1)		博士前期課程(M2)		博士後期課程(D1)		博士後期課程(D2)		博士後期課程(D3)		計
1	8.3%	2	16.7%	6	50.0%	2	16.7%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	12

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差
			5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.3	4 33.3%	8 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12	0	0.471
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.1	2 16.7%	9 75.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	12	0	0.493
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.2	0 0.0%	7 58.3%	0 0.0%	5 41.7%	0 0.0%	12	0	0.986
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	3 25.0%	7 58.3%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	12	0	0.640
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	4.2	4 33.3%	6 50.0%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	12	0	0.687
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.3	4 33.3%	7 58.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	12	0	0.595
Q7	オフィサー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	3.6	2 18.2%	5 45.5%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	11	1	1.068
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.7	3 25.0%	4 33.3%	3 25.0%	2 16.7%	0 0.0%	12	0	1.027
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.2	4 33.3%	6 50.0%	2 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	12	0	0.687
Q10	キャリア形成や資格取得に関して適切な指導、相談が行われている	3.6	3 25.0%	3 25.0%	5 41.7%	0 0.0%	1 8.3%	12	0	1.115



■研究科

回答者数 3

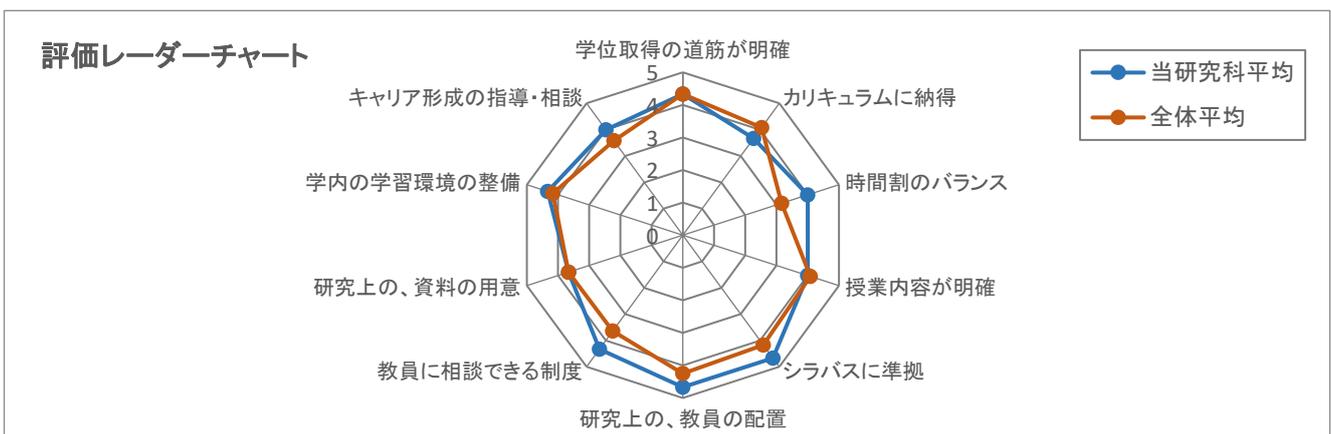
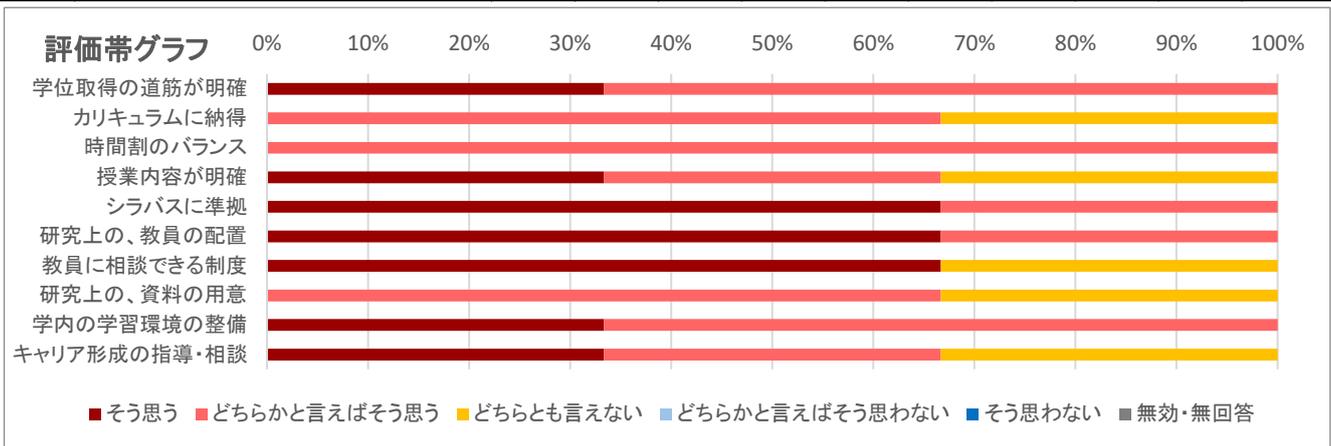
人間文化研究科

■学年

修士課程 (M1)	修士課程 (M2)	博士前期課程 (M1)	博士前期課程 (M2)	博士後期課程 (D1)	博士後期課程 (D2)	博士後期課程 (D3)	計
1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当研究科平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.3	4.3	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.1	3.7	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.2	4.0	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.000
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	4.0	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.816
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	4.2	4.7	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.3	4.7	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	3.6	4.3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.943
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.7	3.7	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.2	4.3	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.471
Q10	キャリア形成や資格取得に関して適切な指導、相談が行われている	3.6	4.0	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3	0	0.816



■研究科

回答者数 9

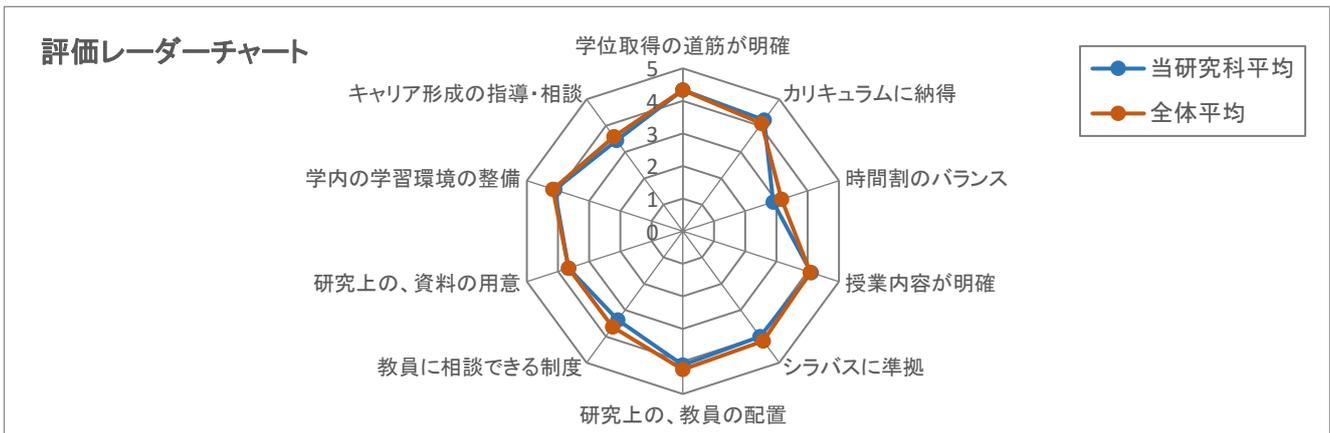
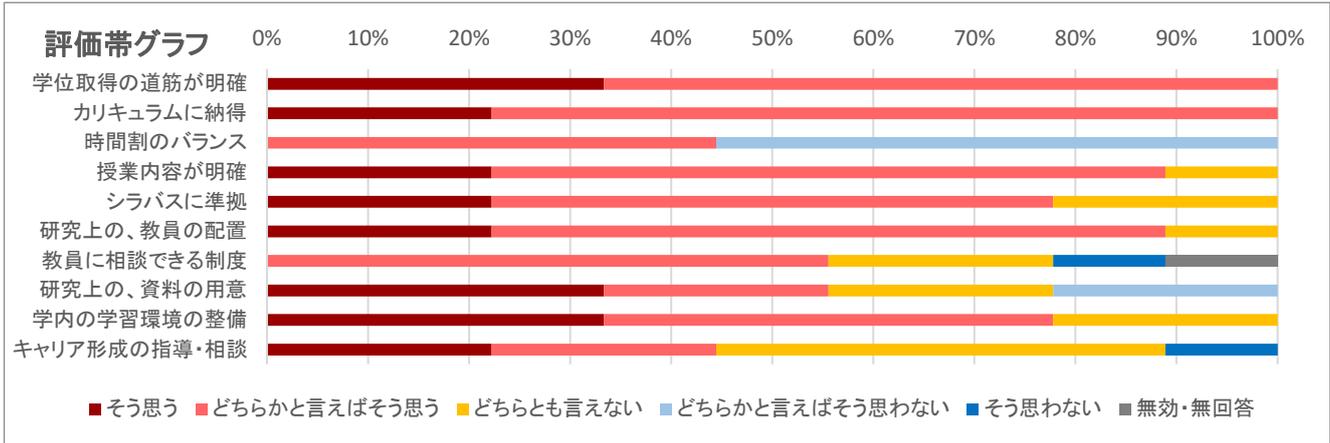
心理学研究科

■学年

修士課程 (M1)	修士課程 (M2)	博士前期課程 (M1)	博士前期課程 (M2)	博士後期課程 (D1)	博士後期課程 (D2)	博士後期課程 (D3)	計							
0	0.0%	0	0.0%	6	66.7%	2	22.2%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	9

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

No.	設問文	全体平均点	当研究科平均点	上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%)					有効回答	無効回答	標準偏差
				5	4	3	2	1			
Q1	学位取得のための道筋が明確に示されている	4.3	4.3	3 33.3%	6 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9	0	0.471
Q2	提示されたカリキュラムは納得のいくものである	4.1	4.2	2 22.2%	7 77.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9	0	0.416
Q3	授業時間割はバランスよく配置されている	3.2	2.9	0 0.0%	4 44.4%	0 0.0%	5 55.6%	0 0.0%	9	0	0.994
Q4	提供される科目の授業内容が明確に示されている	4.1	4.1	2 22.2%	6 66.7%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	9	0	0.567
Q5	個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている	4.2	4.0	2 22.2%	5 55.6%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	9	0	0.667
Q6	研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている	4.3	4.1	2 22.2%	6 66.7%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	9	0	0.567
Q7	オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている	3.6	3.4	0 0.0%	5 62.5%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	8	1	0.992
Q8	研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている	3.7	3.7	3 33.3%	2 22.2%	2 22.2%	2 22.2%	0 0.0%	9	0	1.155
Q9	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4.2	4.1	3 33.3%	4 44.4%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	9	0	0.737
Q10	キャリア形成や資格取得に関して適切な指導、相談が行われている	3.6	3.4	2 22.2%	2 22.2%	4 44.4%	0 0.0%	1 11.1%	9	0	1.165



Ⅲ 2020年度「オープンクラス」実施報告

1.実施概要

オープンクラスは、教員が互いの授業を参観し授業方法に関する知識や技能を共有することで、個々の教員の授業をより質の高いものとすることを目的としている。本学では2011年度より実施している。

2020年度前期は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全学でオンライン授業が実施されたことから、オープンクラスはオンライン授業の映像や教材を視聴する形式で実施した。

後期は、対面授業とオンライン授業が併用された。オープンクラスは対面授業を撮影した映像やオンライン教材等視聴する形式で実施した。前期、後期とも映像の共有、視聴には、Microsoft Streamを使用した。授業参観者からは参観した授業についての感想や助言（コメントシート）が寄せられ、その内容は授業担当教員へ伝えられた。

2020年度「オープンクラス」実施状況

	実施期間	参観者コメントシート	
		コメント数	提出者数
前期	2020年7月8日(水)～7月31日(金)	45	40
後期	2020年12月10日(木)～2021年1月15日(金)	38	31

2020年度前期「オープンクラス」授業科目一覧

	科目区分	学年	授業名	担当教員	参観方法、参照資料等
1	英語英文学科	2-4年次	Women in Leadership	英語英文学科 Steven Herder 准教授	授業の映像を視聴、教材提供あり。
2	教職・資格	2年次	教師論	国際日本文化学科 石川裕之准教授	授業の映像を視聴
3	こども教育学科	2年次	保育実習指導 I-1	こども教育学科 植田恵理子准教授、石井浩子教授、萩原暢子教授、畠山寛准教授、古庵晶子准教授	授業の映像を視聴、教材提供あり。
4	共通教育科目	1年次	暮らしの統計学	心理学科 後藤伸彦講師	スライド資料(PDF)及びスライド資料に記載の映像等を視聴、教材提供あり。
5	心理学科	2,3年次	対人関係論	心理学科 後藤伸彦講師	スライド資料(PDF)を見つ、授業の音声を聴取。
6	福祉生活デザイン学科	2年次	福祉住環境デザイン	福祉生活デザイン学科 竹原広実教授	映像(パワーポイント+音声)を視聴
7	福祉生活デザイン学科	1年次	住居学概論	福祉生活デザイン学科 竹原広実教授	映像(パワーポイント+音声)を視聴

教材	英語英文学科	2-4 年次	Intercultural Communication and Adjustment	英語英文学科 Lyle De Souza 講師	教材の一部（先生の説明音声付のパワーポイント映像）
----	--------	--------	--	----------------------------	---------------------------

2020 年度後期「オープンクラス」授業科目一覧

	科目区分	学年	授業名	担当教員	参観方法、参照資料等
1	英語英文学科	2～4 年次	Public Speaking	英語英文学科 Lyle De Souza 講師	対面授業の映像を視聴 授業中に使用されたパワーポイント及び学生の発表映像（学生が自分で撮影して提出したもの）も提供いただきました。
2	英語英文学科	2 年次	専門講読（英文学）B	英語英文学科 木島菜菜子 講師	対面授業の映像を視聴
3	国際日本文化学科	3,4 年次	日本年中行事論	国際日本文化学科 堀勝博 教授	対面授業の映像を視聴
4	国際日本文化学科	1,2 年次	国際日本文化論	国際日本文化学科 河野有時 教授	対面授業の映像を視聴
5	福祉生活デザイン学科	1 年次	食生活概論	福祉生活デザイン学科 加藤佐千子 教授	対面授業の映像を視聴
6	福祉生活デザイン学科	1 年次	現代社会と家庭経営	福祉生活デザイン学科 青木加奈子 講師	オンデマンド授業の映像を視聴
7	福祉生活デザイン学科	2 年次	繊維材料学	福祉生活デザイン学科 安川涼子 講師	対面授業の映像を視聴
8	福祉生活デザイン学科	3 年次	染色加工学	福祉生活デザイン学科 安川涼子 講師	対面授業の映像を視聴
9	心理学科	2 年次	学習・言語心理学	心理学科 廣瀬直哉 教授	対面授業の映像を視聴
10	心理学科	1 年次	心理学実験演習 I	心理学科 後藤伸彦 講師	対面授業の映像を視聴
11	こども教育学科	2 年次	こどもの保健Ⅱ	こども教育学科 萩原暢子 教授	対面授業の映像を視聴
12	こども教育学科	3 年次	教育実習事前事後指導	こども教育学科 小川博士 准教授	対面授業の映像を視聴

2.現状と今後の課題

本年度は前期から全国的に、大学の授業がオンライン授業（オンデマンド型・リアルタイム型・ブレンド型の主に3種類）の授業形態を余儀なくされた。本学でも多くの教員にとって初めての経験となったため勉強会も開催されたが、文科省の要請から前期開講までの期間が短かったこともあり、各教員が手探り状態で授業を開始せざるを得なかった。このような状況下、オープンクラスは Stream を利用し、オンライン授業を参観するという形で行うこととなった。

前期は、開催時期が既に教員の任意で対面授業を再開していたこともあり、オンデマンド型の授業の映像やリアルタイム型で行われた授業を録画したものを、2020年7月1日～31日の1カ月間に視聴できる形で開催された。各学科1～2科目の合計7科目および教材の一部の公開を含め、8件の授業を視聴することができ、45のコメントシートが提出された。

後期は前期の開催方法が好評であったことに加え、初回の授業からほとんどの授業が対面で行われてはいたが、コロナ禍であることにかわりはないため、前期同様、Stream を利用して行うこととなった。やはり対面授業の録画、オンデマンド型授業の録画で、各学科2～4科目、合計12件の授業を視聴することができた。その結果、延べ61の視聴者、45のコメントシートが提出された。期間は2020年12月10日から年をまたいで1月15日まで開催された。

オンラインで約1カ月間という形は、いつでもどこでも参加しやすいことに加え、リピートできることもあり、実施方法としては前向きな評価が多かった。過去の対面によるすべての授業の公開という点からすると、授業数を絞ってのオンライン公開は有意義である一方、科目によっては時期を逃していた（＝収録時はグループ学習や発表が中心となるコマで、教員が特に工夫している授業方法とは言えず、公開に及ばなかった）といえる。今後このような方法での開催を続けるのであれば、収録時期も課題の一つといえる面があるかもしれない。

文責：古庵 晶子（現代人間学部 こども教育学科 FD委員）

IV 2020年度 FD研修会 実施報告

1. 実施概要

2020年度はFD研修会として以下の2つの研修会を実施した。なお、『ティーチングポートフォリオを作ってみよう』は、ND教育センターと共催した。

1. テーマ：『ティーチングポートフォリオを作ってみよう』

日時：2020年11月20日（金）～2021年1月12日（火）

講師：神月 紀輔 教授 ND教育センター長

受講方法：manaba オンライン授業サポートのコースにて受講

受講者数：56名（すべて教員）

概要：ティーチングポートフォリオとは佐賀大学全学教育機構のページには「教員個人の教育活動について最も重要な成果を選び、教育業績に関する記録集としてまとめたものです。」と記されており、これを生かして授業改善をする取り組みが各地で進められている。受講者は、講師が作成したティーチングポートフォリオとその作成の経験をもとに作成された研修用動画を視聴した。

2. テーマ：『人を対象とする研究における研究倫理を考える』【大学院FD】

日時：2021年3月11日（木）

講師：伏木 信次 氏 京都中部総合医療センター 総長

京都府立医科大学 研究質管理センター長/特任教授

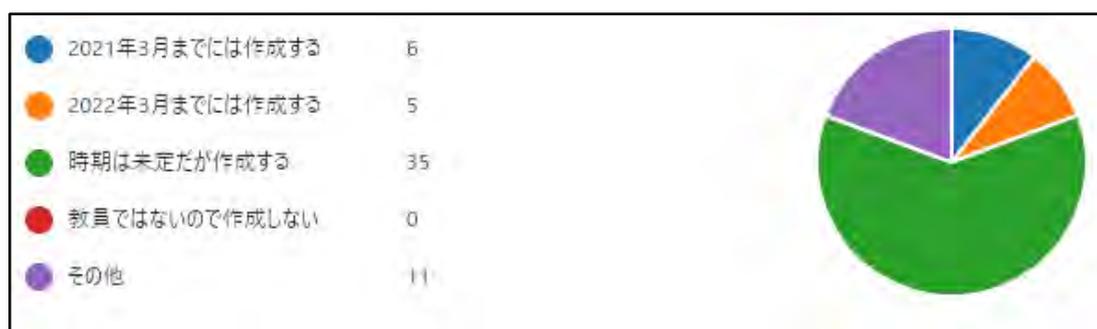
場所：NDホール

受講者数：37名（教員26名、大学院生7名、職員4名）

概要：大学院における研究指導の向上を目的として、「人を対象とする研究における研究倫理を考える」をテーマに、京都中部総合医療センター総長、京都府立医科大学特任教授研究質管理センター長の伏木信次先生にご講演いただいた。講演では、人間を対象とする研究における倫理的課題、ヘルシンキ宣言をはじめとする倫理規範、研究不正の事例、オーサーシップ、研究不正を防ぐための方策や取り組みなど、人を対象とした研究を実施するかどうかに関わらず研究者が必ず知っておくべき内容について分かりやすく述べられた。

2. 現状と今後の課題

第1回FD研修会、『ティーチングポートフォリオを作ってみよう』については、参加者アンケートの設問「2. ご自身のティーチングポートフォリオを作成される時期は、いつ頃になりそうですか？」の回答は以下の通りであった（数字の単位は人数）。



回答結果から、ティーチングポートフォリオ作成に向けての意識づくりに寄与できたと考え
る。

設問「3. 今回の研修会やティーチングポートフォリオについてご意見、ご質問、ご感想を
ご記入ください。」に対しては、ティーチングポートフォリオについて理解できた、とするも
の、自身の授業でもぜひ作成したい、との感想が多くある一方で、ティーチングポートフォリ
オの意義や有効性には理解を示しつつも本学での導入には課題があるとする意見等が寄せられ
た。ティーチングポートフォリオづくりの円滑な推進のためにもこうした問題提起や課題の検
討は行わねばならないだろう。今回は、講師の神月教授及びFD委員長の吉田智子教授から担
当する授業のティーチングポートフォリオの例が示されたが、これについては、実際の授業を
もとにしたモデルが示されたことで具体的なイメージがわいたとの感想があり、作成意欲の向
上につながっていたことがうかがえた。

第2回FD研修会『人を対象とする研究における研究倫理を考える』は、参加者アンケート
を提出した25名のうち13名(52%)が「大変有意義であった」と答え、6名(24%)が「有意義
であった」と答えた。

研修会の内容は研究倫理の基礎から、最新の動向までをカバーし非常に充実した内容であっ
たことから、研修会の感想や意見を尋ねた設問では、大学院生への指導の方法を見直す機会と
なったとの感想、研究者として研究を進めるうえでも重要な事項を理解できたとの感想が多く
寄せられた。また、人を対象とする医学研究を中心とした内容としたことに関しては、研究倫
理一般についての内容を中心としたほうがよかったとの一部意見も寄せられたが、分野に関わ
らず研究倫理の基本と重要性は共通しており役立った、とする意見が大半を占めており、研修
実施の意義があったと考える。このほか、開催時間の再考やオンライン配信での実施を希望す
る意見があり、今後の検討が必要である。

文責：三好 明夫（現代人間学部 福祉生活デザイン学科 FD委員）

V 大学コンソーシアム京都 第26回FDフォーラム

「あらためて大学とは何か～コロナ禍を超えて新しい時代へ～」

第7分科会 「モチベーションクライシスに向き合う」報告

(当日資料をまとめた「報告集」より)

日時：2021年2月27日(土)

場所：オンライン (Zoom使用)

報告者

第一報告者 佛教大学社会福祉学部教授 真砂照美先生

第二報告者 九州ルーテル学院大学人文学部教授 永野典詞先生

第三報告者 学校法人平成医療学園常任理事(大学担当理事)、宝塚医療大学教授小原教孝先生

コーディネーター 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部教授 三好明夫

企画主旨説明

第7分科会では「モチベーションクライシスに向き合う」として報告を行う。

第一報告者は佛教大学の真砂照美先生で、「初年次からの体験的学びと体験の言語化—学習意欲を引き出すために—」として報告をいただく。第二報告者は九州ルーテル学院大学教授永野典詞先生で、「ソーシャルワーク理論と技術を用いた学生支援・教育指導の葛藤—教職員の共通理解の重要性と困難性—」として報告をいただく。第三報告者は学校法人平成医療学園常任理事(大学担当理事)であり宝塚医療大学教授小原教孝先生からは現場教員の支援についてのみではなく大学運営サイドからの提起や課題についても報告をいただく。

「モチベーションクライシスに向き合う」ことの取り組み例と課題

近年は入学後にすぐに登校しないケースや途中の学年で退学していく学生も少なくない。学生たちの大学入学動機とともに大学で学ぶことの意欲低下の検証が必要である。多くの大学ではこれら学生への抱える悩みや不安などに対応するためにさまざまな支援策が実施されていると思われるが、その策がどこまで効果を発揮しているのか、あるいは課題を残しているのか、効果につながっているとすれば具体的な取り組みの工夫について共有することが必要であり、課題があるとすれば課題解決に必要な方策はどのようなものが考えられるのかということも多く大学の事例を検討しながら確かめ合う必要がある。

例えば、学生相談に対する取り組みと課題、修学支援としての取り組みと課題、学習支援のための取り組みと課題、ピアサポートによる取り組みと課題などが考えられるが、モチベーションクライシスに向き合い、学生たちを支援していく場合には、学生の保護者や関係機関団体との連携も必要であろう。今回は、大学全体(教職員の連携)としての取り組みの必要、教員間での連携と協働で行う連携支援の必要についても考えていく。また、初年度教育の充実や担任制度やそれに基づく基礎ゼミナールの編成、カリキュラム(学生たちの自主的な学修の学びも含めたもの)改革や再編成、それによるカリキュラムマップの作成や共通教育科目の充実も必要であろうし、大学間連携、地域連携・地域貢献、産学協働などのプログラムも用意されていよう。

だが、こうした対応だけでモチベーションクライシス、表現を変えると「不本意入学」となった学生の学び(大学生活)を支援することが可能なのだろうか。またダイバーシティの推進において入学する様々な状態(状況)の学生を支援することが可能なのだろうか。確かに検討する必要がある。

第一報告者 佛教大学教授 真砂照美先生

初年次からの体験的学びと体験の言語化—学習意欲を引き出すために—

「大学の初年次教育からの体験的な学び」を今回の報告の主題とし、佛教大学の「地域福祉フィールドワーク」と前任校での「地域がキャンパス」の二つの活動を取り上げ、学生の学習意欲を引き出す体験的学びと体験の言語化について考えたい。

大学における体系的な学びとは何かについて、現地や当事者にとって「どうよきものであったか」という現地や当事者への経験と知識の貢献であるとともに、「学生がどう変容したのか」という参加した学生にとっての意味と意義であるとする。

佛教大学の体験型学習「地域福祉フィールドワーク」の活動例として教育事業開発部門が担当し、学生が参加する「地域福祉フィールドワーク」の活動を展開している。「地域福祉フィールドワーク」には、「小野郷へいこう！：井戸端サロンの企画・実施、配食活動を通じた一人暮らしの高齢者との交流・見守り活動」、「紫野へいこう！：災害ソーシャルワーク」、「大宮へいこう！：一人暮らし高齢者を中心としたグループ『パープルフレンズ』を支援する活動」、「子ども支援：児童養護施設の子どもの学習支援活動」、「若者・ホームレス支援：ホームレスの人、生活困窮者の人の支援、子ども食堂の活動」、「ハンセン病問題を考えるフィールドワーク：ハンセン病問題を学び、ソーシャルワーク専門職の役割と使命を考えるアクティブ・ラーニングの活動」の6つがある。学生が自ら希望する活動を自由に選んで参加するもので、授業化や単位化はされていない。

体験型学習を行うだけでなく体験後にその体験を言語化する試みを伴うことが必要である。経験の言語化や継続的な振り返りのプロセスには、解決しなければならない課題もある。ボランティア活動など授業化や単位化をしていない学生の自発的な体験型学習では、教員の立ち位置によって体験後の振り返りの活動が制限されていくことも考えられる。この点については、大学の組織としての問題もあり、さらなる検討が必要となると思われる。

さらに、このWith コロナの時代にあって、さまざまな繋がりや活動が制限されるなかで、学生の学習意欲を引き出す初年次からの体験的学びと体験の言語化の活動を続けていくことが求められる。それには、学生と教職員がともに模索や工夫をしながら人と人との繋がりを切らない活動を続けていく必要があると考えられる。

第二報告者 九州ルーテル学院大学教授 永野典詞先生

ソーシャルワーク理論と技術を用いた学生支援・教育指導の葛藤

—教職員の共通理解の重要性と困難性—

学生を1人の個別性のある人間と捉え、「学生の最善の利益」のための支援とはいかなるものかを考えてきた。そして、学生、保護者、教職員の信頼関係を育むための適切な関わりと、それに伴う良好な人間関係の構築に留意することの重要性を感じている。

例えば、学生が問題や課題を有するとき、学生と教職員、そして保護者との相互作用によって問題を解決に導くことが可能となるのではないだろうかと考えてきた。また、学生支援に当たっては、ソーシャルワーク理論と技術(特にケースワークの古典的原則ではあるが、「バイスティックの7原則」を用いた支援)を念頭に支援を行っている。所属していた大学でも、公式な支援として中途退学者、休学者を少なくするための取組として「きめ細やかな学生支援」「保護者懇談会(2年生対象)」「学生個別面談」「クラスアドバイザー制度」「学生支援懇談会」などを行っている。

特に小規模大学だからこそできる支援の一例として、在学生の大学生活、学修(学習)、就職活動状況などの共通理解とその支援を目的に、年2回(前期と後期)全教職員が参加する「学生支援懇談

会」を実施している。この会では、クラスアドバイザーや学生支援課などから問題や課題を抱える学生を報告し意見交換を行い、支援の方向性を確認している。

筆者は福祉臨床現場から大学教育の現場に入ってきたことから、学生の退学や休学を回避し、将来の夢に向かって学修を進めていくための手立てや方策として、学生指導、教育指導という考え方よりも、学生の生活、教育を支援する、といった考え方で学生とかかわってきた。教育現場におけるソーシャルワーク実践の必要性、有用性を実感しながら学生支援・教育指導を行っている。

筆者自身、今でも試行錯誤しながら学生支援・教育指導に取り組んでいる。答えが明確でないなかで、それぞれ教職員の価値観や心情で対応することの危険性にも目を向ける必要がある。つまり、学生支援・教育指導では、教職員が感情的にならず、ある一定の知識と技術を持って対応することが必要であるとする。その1つの方法論としてソーシャルワークの知識と技術を提案したい。

最後に、オンライン報告会では、特に学生とのポジティブ（肯定的）な関わり方、捉え方、そして相互作用と意味づけについても報告する予定である。学生が夢と希望を持って入学（不本意入学の場合もあるが）し高いモチベーションを有しているなかで、モチベーションを削がない関わりも重要であろう。

第三報告者 学校法人平成医療学園常任理事(大学担当理事)、宝塚医療大学教授小原教孝先生

私立大学界において、生き残り（勝ち残り）をかけた選別の時代に入っている。学校間は二極化しており、生き残り（勝ち）組、廃校または弱小（負け）組となりうる。学校経営は教員と事務職員の総力戦である。経営革新の着眼点は資源の有効活用とコスト効率である。旧態依然とした不活性な体質を変革できない学校は存亡の危機である。

学校組織の現状と問題点について、組織とは事業活動を具現する支持体である。学校組織の場合、次のような弊害が存在するため、組織として機能するよう管理することは、実際には困難な課題である。

《組織の弊害の三大要因》について、学校における組織の弊害の一つ目：学校教育は需要と供給が同時的であり、貯蔵が不可能である結果として携わる人間の属人的特性や労働力に左右される。二つ目：労働生産性の評価等にも用いる学生数や事業収益は、貨幣価値に関連付けるための擬制指標であり、学校本来の事業指標での成果測定が困難なため投入と創出の曖昧さがある。三つ目：組織構造上、事務系にみられる組織的権限と教員系にみられる組織的権限そして理事会にみられる理事組織の権限や理事長・副理事長の指示に代表される権限などが混在し、命令系統が交錯することがあるため、良好な組織運営が阻害されることがある。このような面から、学校の組織、人事の運営は、近代的機能組織の管理手法から最も隔離された分野の一つとも言えよう。その結果、「役割意識・成果認識の浸透の欠如」となりうる。

以上のような面から、学校の組織、人事の運営は、近代的機能組織の管理手法から最も隔離された分野の一つとも言えよう。その結果、「役割意識・成果認識の浸透の欠如」「やる気のある優秀な人材への仕事量の負荷の偏り」「日々の業務に埋没」といった状況に陥っている。

《校内活性化の考え方》である。これらの組織・人事制度の革新には、「成果責任の明確化」、「自己責任の原則の確立」に根差した自立的・自主的な行動、「成果や能力の適正評価」によりさまざまな報酬を実現する。「組織・人事・処遇体系」のシステムを構築することが不可欠となる。公平な処遇と対等な人間関係が確立され、職員が仕事に満足を感じることでできる条件が満たされてはじめて組織は活力を漲らせる。概論的だが校内活性化を図るには、「提供される労働力の質と量の管理」、「提供される労働力の価値の管理」、「労働力の提供者の管理」が基本となる。

各論的には、「理念やビジョンによる方針の明示」、「大局的で迅速な意思決定システム」、「フォーマルなコミュニケーションを前提とした組織の統合化」「権限委譲など適切な管理姿勢」、「成果責任を明確にした業績志向性」、「創造性を尊重する人間関係」、「研修・教育制度による人材育成」、「画一的年功主義でない公正な人事考課による処遇」といったことが課題になる。これらの課題を今まで避けてきた学校ほど、変革のために支払うコストも大きくなることだろう。意識改革どころか、意識不明の組織では、意識の覚醒から始めなければならないことを肝に銘じて待ったなしに取り組まなければならない。

《加速化する革新への対応》としては、1. 環境変化と学校経営へのインパクト、ポイント：外部環境の構造的変化を鋭く見抜く。2. 経営革新の基本スキームと展開着眼、ポイント：革新手法の原理原則を忠実に貫徹する。3. 総戦力に向けた経営組織と階層的役割、ポイント：上位層・中間層・下位層が責務を全うする。4. 機能的組織の確立と成果責任の明確化、ポイント：成果責任を認識した組織文化を醸成する。5. 経営革新活動の具体的プロセスと課題、ポイント：活動の手順化と問題の構造化を図る。であろう。

改善の進め方である。改善を進めるための基本的な手順は、下に示すように、七つのステップを踏んで行う。すなわち、第1ステップ：問題点を把握する。第2ステップ：改善目標を設定する。第3ステップ：要因を解析する。第4ステップ：改善策を検討する。第5ステップ：改善計画を実施する。第6ステップ：改善成果を評価する。改善成果が不満足のとときは、第4さらには第3のステップにさかのぼって再検討する。所期の成果が確認できたら、第7ステップ：歯止めを行い、管理の定着をはかる。

《QCDPSM》である。①教員・学生の質 (Quality:クオリティ)が問題か？②学納金の価格(Cost:コスト)が問題か？③教育期間(Delivery:デリバリー)が問題か？④教育の生産性(Productivity:プロダクティビティ)が問題か？⑤安全(Safety:セイフティ)が問題か？⑥志気(Morale:モラル)が問題か？

⑦教育材料(Material:マテリアル)に問題はないか？⑧教育機器(Machine:マシン)に問題はないか？⑨教員・事務職員(Man:マン)に問題はないか？⑩方法(Method:メソッド)に問題はないか？《3ム》として、①ムダ(無駄)はないか？②ムラ(むら)はないか？③ムリ(無理)はないか？

まとめとして、『これからの対応ポイント』、《納得と感動を与えられる学校づくり》①安全性をワンランクアップさせる。②信頼性をワンランクアップさせる。③快適さをワンランクアップさせる。④優しさをワンランクアップさせる。⑤清潔さをワンランクアップさせる。⑥マナーをワンランクアップさせる。⑦ゆとりをワンランクアップさせる。⑧利便性をワンランクアップさせる。⑨イメージをワンランクアップさせる。⑩学習をワンランクアップさせる。⑪愛校精神をワンランクアップさせる。

文責 三好 明夫(現代人間学部 福祉生活デザイン学科 FD 委員)

2020 年度 FD 委員会構成員

委員長	吉 田 智 子	(国際言語文化学部 国際日本文化学科 / 教育センター)
委 員	York Weatherford	(国際言語文化学部 英語英文学科)
委 員	村 松 朋 子	(現代人間学部 心理学科)
委 員	古 庵 晶 子	(現代人間学部 こども教育学科)
委 員	三 好 明 夫	(現代人間学部 福祉生活デザイン学科)
委 員	谷 愛 子	(研究・情報推進課課長)
事務局	研究・情報推進課	

京都ノートルダム女子大学
2020 年度 FD 報告書

2021 年 5 月 1 日発行

編 集	京都ノートルダム女子大学 FD 委員会 (事務局：研究・情報推進課)
発 行	京都ノートルダム女子大学 〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1 番地 TEL (075) 781-1173 FAX (075) 706-3707 ホームページ http://www.notredame.ac.jp



京都ノートルダム女子大学